コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）2013
実施報告書



CoFesta

2013

コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）実行委員会

CoFesta 2013

目次

【はじめに】

コ・フェスタ 2013 実施報告書発行にあたり……2

【運営体制】

コ・フェスタとは？／運営組織図／
コ・フェスタ実行委員会……3

コ・フェスタ実行委員会　委員一覧……4

【開催概要】

コ・フェスタ 2013 参加イベント一覧……5

【百人委員会】

百人委員会とは／百人委員会委員一覧……6

【オフィシャルイベント】

KYOTO CMEX 2013……8
東京ゲームショウ 2013……10
日本ゲーム大賞 2013……11
CEATEC JAPAN 2013……12
CMT……13
Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO 2014 S/S……14
第 40 回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール……15
第 10 回文化庁映画週間……16
第 26 回東京国際映画祭……17
国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2013……18
第 10 回東京国際ミュージックマーケット（TIMM）……19
TIFFCOM 2013
Marketplace for Film & TV in Asia（TIFFCOM）……20
東京国際アニメ祭 2013 秋……21
デジタルコンテンツ EXPO 2013……22
マンガフェスティバル in シンガポール……23
Inter BEE 2013……24
第 30 回 ATP 賞……25

【パートナーイベント】

第 4 回国際科学映像祭……27
京都国際マンガ・アニメフェア 2013……27
第 35 回 PFF ぴあフィルムフェスティバル……28
CREATIVE HACK AWARD 2013……28
吉祥寺アニメワンダーランド 2013……29
MPTE AWARDS 2013 第 66 回 表彰式……29
J-Music LAB……30
LA EigaFest 2013……30
第 4 回 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード 2013」…31
Tokyo Docs 2013……31
豪州ジャパン・エキスポ……32

【コ・フェスタアンバサダー】

コ・フェスタアンバサダー……33

【一体感の創出】

公式行事等への実行委員会正副委員長の出席……36

【広報】

制作物……37

・氏名は敬称略を基本とします。
・株式会社、社団法人、財団法人、独立行政法人は、それぞれ㈱、㈳、㈶、�独と略すことを基本とします。
・一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人は、それぞれ（一社）、（公社）、（一財）、（公財）と略すことを基本とします。

はじめに



コ・フェスタ2013 実施報告書発行にあたり

コ・フェスタ2013実行委員長　大谷　信義

皆様方におかれましては、「コ・フェスタ2013」の開催に際しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

コ・フェスタは、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画、ファッション、デザインといったコンテンツ産業に関わるイベントが連携し、世界に向けてジャパンコンテンツを発信していくフェスティバルです。2007年から開催されて今年で7年目を迎えたこのフェスティバルは、17の「オフィシャルイベント」、11の「パートナーイベント」等、多種多様なコンテンツフェスティバルとして、国内外より広く多くの方にご来場いただきました。

本年度のコ・フェスタは、従来のオフィシャルイベントの連携や共催に加えて、ソーシャル・メディアを活用し、海外の消費者ニーズを把握するため、日本においては留学生、海外においては現地の学生を中心とした「コ・フェスタアンバサダー」を組織いたしました。日本コンテンツに対して深い知見を持ち、ＳＮＳ等を駆使して国際的な発信力がある「コ・フェスタアンバサダー」を活用しながら、海外におけるコンテンツ消費者動向調査を行い、また、その調査結果をコ・フェスタ関連イベントおよびコンテンツホルダーに対し還元することで、ビジネスマッチングの機会を提供いたしました。

また、海外におけるコンテンツ関連イベントへの「コ・フェスタアンバサダー」の参加等を通じて、現地において発信力の高いファン層（インフルエンサー）とのネットワークを構築するとともに、海外のバイヤー、クリエイター、プロデューサー等のコンテンツ関係者に向けて情報提供を行い、コ・フェスタの認知を高める活動を実施いたしました。

ここに、関係各位のご協力のもと、コ・フェスタ2013の実施報告書がまとまりましたので、ご一読いただければ幸いです。今年の成果を踏まえ、この7年間のコ・フェスタで培ったコンテンツ業界としての一体感と海外への発信力を一段と高めるべく、次の諸準備を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、コ・フェスタ2013にご参加いただきましたオフィシャルイベント、パートナーイベントの主催者・後援者、および関係者の皆様方の多大なるご協力に重ねて御礼申し上げます。

大谷 信義

運営体制　コ・フェスタとは?／運営組織図／実行委員会

コ・フェスタとは?

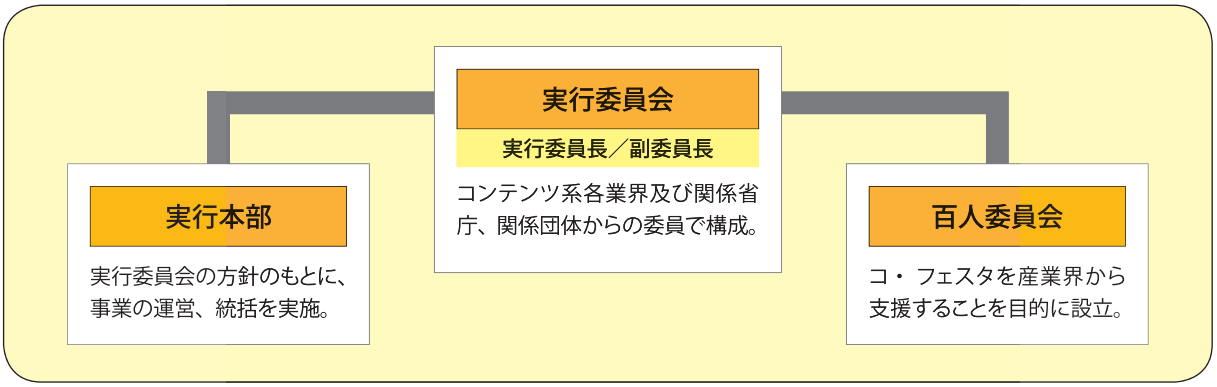
コ・フェスタとは、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントが連携して開催する世界最大規模の統合的コンテンツフェスティバルです。

名　称：コ・フェスタ 2013
主　催：コ・フェスタ実行委員会
開催場所：日本各地、および海外
2013 年総来場者数：約 202 万人

【コ・フェスタ開催の目的】
●日本の各分野におけるコンテンツを相互に連携させて世界へ向けて発信し、世界中のコンテンツ関係者が日本の数多くのコンテンツに触れる機会を提供する。

●世界のコンテンツやコンテンツ関係者の新たな交流の場とし、国際共同製作や国際ビジネスの交流に結び付ける。

■運営組織図



■コ・フェスタ実行委員会

コ・フェスタの最高意志決定機関として、エグゼクティブ・プロデューサー等から上申された事項を審議、決議するとともに、コ・フェスタ独自のイベントの実施及び広報活動並びに各業界イベントとの協力体制の強化を行う。

●第 1 回実行委員会
日時：2013 年 9 月 2 日（月）
場所：東京會舘 11F ゴールドルーム
【審議事項】
第 1 号議案　委員長、副委員長専任の件
第 2 号議案　オフィシャルイベント承認の件

●第 2 回実行委員会
日時：2014 年 3 月 18 日（火）
場所：銀座フェニックスプラザ 2 階　フェニックスホール





CoFesta 2013

運営体制　コ・フェスタ実行委員会　委員一覧

2014年3月18日現在（敬称略）

【委員長】

大谷　信義	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長 （松竹株式会社 代表取締役会長）

【副委員長】

依田　巽	一般社団法人日本経済団体連合会 産業問題委員会 エンターテインメント・コンテンツ産業部会 部会長 （ギャガ株式会社 代表取締役会長兼社長CEO）
迫本　淳一	公益財団法人ユニジャパン 理事長 （松竹株式会社　代表取締役社長）
重延　浩	株式会社テレビマンユニオン 会長 ゼネラルディレクター 取締役
松谷　孝征	特定非営利活動法人映像産業振興機構 理事長 （株式会社手塚プロダクション 代表取締役社長）

【委員】

井上伸一郎	株式会社KADOKAWA 代表取締役専務
井上　弘	一般社団法人日本民間放送連盟 会長 （株式会社東京放送ホールディングス 代表取締役会長）
鵜之澤　伸	一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会 会長 （株式会社バンダイナムコゲームス代表取締役副社長）
岡田　裕介	東映株式会社 代表取締役社長
加藤　隆司	日本政府観光局（JNTO）理事
斉藤　正明	一般社団法人日本レコード協会 会長 （ビクターエンタテインメント株式会社 代表取締役社長）
椎名　保	東京国際映画祭 ディレクター・ジェネラル （株式会社KADOKAWA 取締役相談役）
鷲見　良彦	一般財団法人デジタルコンテンツ協会 専務理事
野間　省伸	株式会社講談社 代表取締役社長
松岡　功	一般社団法人映画産業団体連合会 会長 （東宝株式会社 名誉会長）
三宅　正彦	一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 理事長 （株式会社TSIホールディングス 代表取締役会長兼社長）
宮本　聡	独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）副理事長
籾井　勝人	日本放送協会 会長
矢内　廣	ぴあ株式会社 代表取締役社長
和崎　信哉	一般社団法人衛星放送協会 会長 （株式会社 WOWOW 代表取締役社長）

（以上、50音順）

山根　啓	内閣官房 知的財産戦略推進事務局 次長
南　俊行	総務省 大臣官房審議官（情報流通行政局担当）
齋木　尚子	外務省 大臣官房 国際文化交流審議官
川端　和明	文化庁 文化部長
大橋　秀行	経済産業省 大臣官房審議官（IT戦略担当）
篠原　康弘	観光庁 審議官
杉崎智恵子	東京都産業労働局 観光部長

【監事】

倉内　均	一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟 理事長 （株式会社アマゾンラテルナ 代表取締役社長）
島谷　能成	一般社団法人日本映画テレビ技術協会 会長 （東宝株式会社 代表取締役社長）

開催概要　コ・フェスタ 2013 参加イベント一覧

オフィシャルイベント

	イベント名	開催期間	開催場所
1	KYOTO Cross Media Experience 2013 （KYOTO CMEX 2013）	9月6日（金）～2014年3月9日（日）	みやこめっせ、京都国際マンガミュージアム 他
2	東京ゲームショウ 2013	9月19日（木）～9月22日（日）	幕張メッセ
3	日本ゲーム大賞 2013	9月19日（木）～9月22日（日）	幕張メッセ
4	CEATEC JAPAN 2013	10月1日（火）～10月5日（土）	幕張メッセ
5	CMT	10月1日（火）～2014年2月28日（金）	ホテル グランパシフィック LE DAIBA 他
6	Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO 2014 S/S	10月14日（月）～10月19日（土）	渋谷ヒカリエ、メルセデス・ベンツ コネクション
7	第40回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール	10月17日（木）～10月24日（木）	NHK放送センター
8	第10回文化庁映画週間	10月17日（木）～10月24日（木）	グランドハイアット東京、六本木アカデミーヒルズ49 他
9	第26回東京国際映画祭	10月17日（木）～10月25日（金）	六本木ヒルズをメイン会場に、 都内の各劇場及び施設・ホールを使用
10	国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2013	10月22日（火）	東京プリンスホテル
11	第10回東京国際ミュージックマーケット	10月22日（火）～10月24日（木）	ホテル グランパシフィック LE DAIBA Zepp DiverCity TOKYO
12	TIFFCOM 2013	10月22日（火）～10月24日（木）	ホテル グランパシフィック LE DAIBA
13	東京国際アニメ祭2013秋	10月22日（火）～10月24日（木）	ホテル グランパシフィック LE DAIBA
14	デジタルコンテンツEXPO 2013	10月24日（木）～10月26日（土）	日本科学未来館
15	マンガフェスティバル in シンガポール	11月7日（木）～11月10日（日）	インターナショナル コンベンション & エキシビション センター（シンガポール）
16	Inter BEE 2013	11月13日（水）～11月15日（金）	幕張メッセ
17	第30回ATP賞	12月4日（水）	六本木ハリウッドホール

パートナーイベント

	イベント名	開催期間	開催場所
1	第4回国際科学映像祭	8月1日（木）～9月29日（日）	日本国内の科学館・プラネタリウム館・シアターなど 59施設
2	京都国際マンガ・アニメフェア 2013	9月6日（金）～9月8日（日）	京都市勧業館（みやこめっせ）ほか
3	第35回PFFぴあフィルムフェスティバル	9月14日（土）～9月20日（金）など	渋谷シネクイントなど各地
4	CREATIVE HACK AWARD 2013	10月1日（火）	アメリカンクラブ
5	吉祥寺アニメワンダーランド2013	10月5日（土）～10月14日（月）	吉祥寺駅周辺（井の頭公園ステージ・武蔵野商工会館・ 武蔵野公会堂ほか）
6	MPTE AWARDS 2013 ～一般社団法人日本映画テレビ技術協会 第66回表彰式～	10月23日（水）	六本木アカデミーヒルズ49
7	J-Music LAB	11月15日（金）～12月15日（日）	ジャカルタ
8	LA EigaFest 2013	12月6日（金）～12月8日（日）	Egyptian Theatre（Hollywood, USA）
9	第4回 映文連 国際短編映像祭 「映文連アワード2013」	12月6日（金）・8日（日）～11日（水）	国立新美術館講堂、日仏会館ホール
10	Tokyo Docs 2013	12月9日（月）～12日（木）	千代田放送会館
11	豪州ジャパン・エキスポ	12月14日（土）	シドニー・ダーリングハーバー　タンバロングパーク

百人委員会　百人委員会とは／百人委員会委員一覧

■百人委員会とは

正式名称：コ・フェスタ百人委員会（通称：百人委員会）
設立主旨：コ・フェスタを産業界から支援することを目的とする。
2013年度活動内容：コ・フェスタウェブサイトへの委員一覧掲載協力、セレモニーへの参加。

■委員一覧

【委員長】　西 田 厚 聰　㈱東芝　取締役会長

2013年10月1日現在　百人委員会就任企業108社

伊 藤 源 嗣　㈱IHI　相談役
和 田 修 治　㈱アサツー ディ・ケイ　コンテンツ本部 本部長
木 村 伊 量　㈱朝日新聞社　代表取締役社長
荻 田　伍　アサヒグループホールディングス㈱　代表取締役会長 兼 CEO
小 林 栄 三　伊藤忠商事㈱　取締役会長
亀 井　淳　㈱イトーヨーカ堂　代表取締役社長
長 瀬 文 男　㈱イマジカ・ロボットホールディングス　代表取締役会長 グループCEO
菅 田 史 朗　ウシオ電機㈱　代表取締役社長
今 井　環　㈱NHKエンタープライズ　代表取締役社長
篠 田 和 久　王子ホールディングス㈱　代表取締役会長
川 崎 秀 一　沖電気工業㈱　代表取締役社長
井上伸一郎　㈱KADOKAWA　代表取締役専務
辻 本 憲 三　㈱カプコン　代表取締役会長
福 井 澄 郎　関西テレビ放送㈱　代表取締役社長
木 下 直 哉　㈱木下ホールディングス　代表取締役社長 兼 グループC.E.O
依 田　巽　ギャガ㈱　代表取締役会長 兼 社長 CEO
御手洗冨士夫　キヤノン㈱　代表取締役会長 兼 社長 CEO
村 瀬 治 男　キヤノンマーケティングジャパン㈱　代表取締役会長
三 宅 占 二　キリンホールディングス㈱　取締役社長
重 村 博 文　キングレコード㈱　代表取締役社長
襟 川 陽 一　㈱コーエーテクモゲームス　代表取締役社長
藤 原　浩　コダック㈱　代表取締役社長
田中富美明　㈱コナミデジタルエンタテインメント　代表取締役社長
坂 根 正 弘　㈱小松製作所　相談役
柄 澤 哲 夫　㈱ゴンゾ　執行役員社長 兼 CEO
熊 坂 隆 光　㈱産業経済新聞社　代表取締役社長
渡　文 明　ＪＸホールディングス㈱　相談役
田 中　順　ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン合同会社
ローカルアクイジション＆プロダクション本部長
迫 本 淳 一　松竹㈱　代表取締役社長
市 川 秀 夫　昭和電工㈱　代表取締役社長
高 田 真 治　スカパーJSAT㈱　代表取締役 執行役員社長
松 田 洋 祐　㈱スクウェア・エニックス・ホールディングス　代表取締役社長
米 倉 弘 昌　住友化学㈱　代表取締役会長
岡　素 之　住友商事㈱　相談役
花 岡 清 二　セイコーエプソン㈱　相談役
平 井 一 夫　ソニー㈱　取締役 代表執行役社長 兼 CEO
鉄 屋 浩 三　ソニーPCL㈱　代表取締役 執行役員社長
北 川 直 樹　㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役 コーポレイト・エグゼクティブ CEO
大 塚 徹 哉　㈱第一通信社　代表取締役社長
山 内 隆 司　大成建設㈱　代表取締役社長
北 島 義 俊　大日本印刷㈱　代表取締役社長
鈴 木 茂 晴　㈱大和証券グループ本社　取締役会長
富山幹太郎　㈱タカラトミー　代表取締役社長
山 本 孝 義　中京テレビ放送㈱　代表取締役社長
大 石 幼 一　中部日本放送㈱　代表取締役社長
石 橋 誠 一　㈱テイチクエンタテインメント　代表取締役社長
吉 田 博 昭　㈱ティー・ワイ・オー　代表取締役社長
杉 山 知 之　デジタルハリウッド㈱　デジタルハリウッド大学学長
小 谷　勝　テレビ愛知㈱　代表取締役社長
早 河　洋　㈱テレビ朝日　代表取締役社長
上 田 克 己　テレビ大阪㈱　顧問
髙 橋 雄 一　㈱テレビ東京　代表取締役社長
俣 木 盾 夫　㈱電通　相談役
岡 田 裕 介　東映㈱　代表取締役社長
高 橋　浩　東映アニメーション㈱　取締役会長
内 田　優　東海テレビ放送㈱　代表取締役社長
鳥 原 光 憲　東京ガス㈱　取締役会長
難 波 一 弘　㈱TBSテレビ　取締役
西 室 泰 三　㈱東芝　相談役
島 谷 能 成　東宝㈱　代表取締役社長
林 田　洋　㈱東北新社　取締役会長
藤 田 弘 道　凸版印刷㈱　相談役
小 宮 秀 之　㈱トーハン　取締役　海外事業部門担当
張 富 士 夫　トヨタ自動車㈱　名誉会長
荒 木 高 伸　名古屋テレビ放送㈱　代表取締役社長
佐 藤 直 樹　日活㈱　代表取締役社長
重 久 吉 弘　日揮㈱　日揮グループ代表　名誉会長
長 田 公 平　㈱日経BP　代表取締役社長
丹 羽 信 一　㈱日本経済広告社　代表取締役社長
平 田 保 雄　㈱日本経済新聞社　取締役会長
大 西　賢　日本航空㈱　代表取締役会長
原　康 晴　日本コロムビア㈱　代表取締役社長 兼 最高執行責任者
岡 村　正　日本商工会議所　会頭
大久保好男　日本テレビ放送網㈱　代表取締役 社長執行役員
矢 野　薫　日本電気㈱　取締役会長
氏 家 純 一　野村ホールディングス㈱　常任顧問
成 田 純 治　㈱博報堂　代表取締役会長
大 森 壽 郎　㈱博報堂ＤＹメディアパートナーズ　代表取締役社長
柏 木　登　㈱バップ　代表取締役 社長執行役員
中 村 邦 夫　パナソニック㈱　相談役
石 川 祝 男　㈱バンダイナムコホールディングス　代表取締役社長
矢 内　廣　ぴあ㈱　代表取締役社長
深 澤 祐 二　東日本旅客鉄道㈱　代表取締役副社長
川 村　隆　㈱日立製作所　取締役会長
林　瑞 峰　㈱ヒューマックスシネマ　代表取締役社長
後藤由多加　㈱フォーライフミュージックエンタテイメント代表取締役社長
秋 草 直 之　富士通㈱　相談役
亀 山 千 広　㈱フジテレビジョン　代表取締役社長
古 森 重 隆　富士フイルム㈱　代表取締役会長・CEO
大 島 康 広　㈱プラザクリエイト　代表取締役社長
桐 畑 敏 春　㈱ポニーキャニオン　代表取締役社長
堀　義 貴　㈱ホリプロ　代表取締役社長
朝 比 奈 豊　㈱毎日新聞社　代表取締役社長
河 内 一 友　㈱毎日放送　代表取締役社長
齋 藤　宏　みずほフィナンシャルグループ　名誉顧問
岩 沙 弘 道　三井不動産㈱　代表取締役会長
野 間 口 有　三菱電機㈱　相談役
畔 柳 信 雄　㈱ 三菱東京UFJ銀行　相談役
辻　慎 吾　森ビル㈱　代表取締役社長
高 原 豪 久　ユニ・チャーム㈱　代表取締役社長
小 池 一 彦　ユニバーサル ミュージック合同会社　CEO兼社長
吉野伊佐男　吉本興業㈱　代表取締役会長
白石興二郎　㈱読売新聞グループ本社　代表取締役社長
望 月 規 夫　讀賣テレビ放送㈱　代表取締役社長
白 石 弘 幸　琉球放送㈱　代表取締役社長
石 坂 敬 一　㈱ワーナーミュージック・ジャパン　代表取締役会長 兼 CEO
和崎　信哉　㈱WOWOW　代表取締役社長
塚本　能交　㈱ワコールホールディングス　代表取締役社長

CoFesta2013 Official Events

コ・フェスタ オフィシャルイベントとは、コンテンツ産業（ゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画）、およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業の各業界・組織が主催するイベント。

KYOTO CMEX 2013
東京ゲームショウ 2013
日本ゲーム大賞 2013
CEATEC JAPAN 2013
CMT
Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO 2014 S/S
第40回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール
第10回文化庁映画週間
第26回東京国際映画祭
国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2013
第10回東京国際ミュージックマーケット
TIFFCOM 2013
東京国際アニメ祭2013秋
デジタルコンテンツ EXPO 2013
マンガフェスティバル in シンガポール
Inter BEE 2013
第30回ATP賞

オフィシャルイベント　KYOTO CMEX 2013


レセプション



京都国際マンガ・アニメフェア 2013


マンガ出張編集部


京都国際マンガミュージアムイベント「絵師100人展 02 京都篇」


コンテンツクロスメディアセミナー

名　称：KYOTO Cross Media Experience 2013（KYOTO CMEX2013）
会　期：2013年9月6日（金）～2014年3月9日（日）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）／京都国際マンガミュージアム／京都商工会議所／東映京都撮影所／松竹撮影所／東映太秦映画村／京都文化博物館など
主　催：KYOTO Cross Media Experience実行委員会
対　象：国内外のコンテンツ産業関係者、若手クリエイターやクリエイターを目指す大学生、コンテンツに関心のある方など
来場者数：92,904人

■内容

●レセプション
日時：9月6日（金）
会場：ソウドウ東山
概要：KYOTO CMEXを国内外に発信するとともに、コンテンツ産業に携わる国内外のトップランナーやクリエイター等の分野横断的な人材交流を目的に開催した。

●「京都国際マンガ・アニメフェア（略称：京まふ）2013」
日時：9月7日（土）～8日（日）
会場：京都市勧業館（みやこめっせ）
概要：50以上のマンガ・アニメ関連企業・団体によるブース出展や人気作品のステージイベントを20以上開催し、31,800人の来場者を集めた。マンガ・アニメキャラクターと京都市内企業を中心とした事業者とのタイアップ商品を100種類以上開発し、フェア内で販売したほか、今回新たに、アニメとコラボしたフード・ドリンクコーナーを開設し、好評を得た。

●京都版トキワ荘事業「マンガ出張編集部」
日時：9月8日（日）
会場：京都市勧業館（みやこめっせ）京都国際マンガ・アニメフェア会場内
概要：首都圏のマンガ編集部を京都へ招聘し、マンガ家志望者が原稿を持ち込んで添削やアドバイスを受ける場を設けた。17出版社44編集部が出展し、300人がマンガ原稿の持ち込みを行った。

●京都国際マンガミュージアムイベント「絵師100人展 02 京都篇」
日時：9月28日（土）～12月1日（日）
場所：京都国際マンガミュージアム
概要：高い技術で秀麗なイラストを描く105人の絵師（イラストレーター）達の作品を展示。日本のポピュラーカルチャーとして国内外から高い評価を得て、期間中約6千人の来場者が訪れた。

●GO-TAN! アニメフェア　天橋立コスプレアニカライベント
日時：9月15日（日）
場所：天橋立周辺
概要：コスプレやアニカラなどのイベントを開催し、新産業・新しい観光（着地型観光・もてなしの観光）の創出を図った。

●コンテンツクロスメディアセミナー
日時：10月8日（火）、11月5日（火）、11月18日（月）
場所：京都商工会議所　※11月5日（火）のみハイアットリージェンシー京都
概要：コンテンツ業界並びに異業種の人材交流のため、クリエイティブ産業の業界や著名人を招き、セミナーを実施。セミナー終了後には、講師を囲んでの交流会を開催した。

オフィシャルイベント　KYOTO CMEX 2013

●KYOTO MEDIA COMMUNITY（京都太秦シネマフェスティバル）
日時：11月23日（祝・土）、24日（日）
場所：太秦地域一帯
概要：撮影所、商店街など「映画のまち 京都太秦」全体で、学生・若手クリエーターの「コンテンツ・マーケット」、プロ指導による子ども映画制作ワークショップ、歴史創作コンテンツファンが集い交流するイベント等を開催し、太秦を基盤とした「コンテンツコミュニティ」の形成を図った。

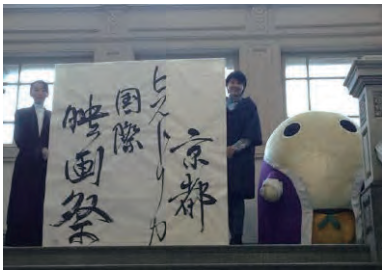


KYOTO MEDIA COMMUNITY

●京都幕末フェスティバル in UZUMASA
日時：11月23日（祝・土）、24日（日）
会場：東映太秦映画村
概要：歴史創作に関するトークショー、参加型で楽しむコスプレイベントなどを開催し、歴史創作コンテンツのクロスメディア発信拠点としての京都・太秦をPRした。


京都幕末フェスティバル in UZUMASA

●HISTORICA（ヒストリカ）
日時：11月30日（土）～12月8日（日）
会場：T・ジョイ、京都文化博物館、MOVIX京都
概要：映画・映像制作の拠点である太秦の撮影所等の協力のもと、歴史をテーマにした国際映画祭を開催し、国内外の歴史映画を上映するとともに、映画製作関係者等を招き、クロスメディア展開の手法や国際事業展開の可能性を探った。



HISTORICA

●京都映画企画市
日時：12月6日（金）
会場：京都文化博物館別館
概要：若手映画・映像製作者を対象とした企画コンテストや交流・相談会の開催などを通じて、時代劇の拠点としての京都の優位性を活かし、映画・映像や若手クリエイターが世に出ていく仕組みを構築することを目的とし開催した。

●京都映画若手才能育成ラボ
日時：12月9日（月）～12日（木）
会場：松竹撮影所、東映京都撮影所、東映太秦映画村、京都文化博物館
概要：国内外の若手映画制作者を対象に、短編時代劇映画制作の機会を提供する本格的な時代劇制作ワークショップを実施し、人材の育成を図った。


京都映画企画市

●Bit Summit（京都ゲームフェスタ）
日時：3月7日（金）～9日（日）
会場：京都市勧業館（みやこめっせ）
概要：日本最大となる約100社（者）ものインディーゲームメーカー・クリエーターを集め、海外ゲームメディア等の招聘・マッチング、インディーゲーム・アワードの創設・授与等を通じて、ユニークで創造性の高いメーカー・クリエーターの発掘、国内外へ発信した。

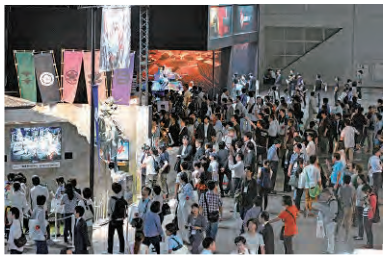

京都映画若手才能育成ラボ

オフィシャルイベント　TOKYO GAME SHOW 2013













名　称：東京ゲームショウ 2013
会　期：2013年9月19日（木）～9月22日（日）
会　場：幕張メッセ
主　催：（一社）コンピュータエンターテインメント協会（CESA）
共　催：日経BP社
後　援：経済産業省
対　象：コンピュータエンターテインメント業界関係者及び一般
来場者数：270,197人（※過去最多）

■内容
「東京ゲームショウ2013」は、「世界最上級のゲームビジネスイベント」と「一般来場者の満足度向上」を目標に掲げ「GAMEは、進化し続ける」をテーマに開催した。
4日間を通じた総来場者数は、昨年比5万人増の約27万人となり、9月22日（日）は、1日単独で、11万5千人を動員し過去最多来場者数を更新した。

今年は、特に発売前の新型家庭用ゲーム機が一般向けに初めて公開されることから4日間ともに大幅な来客になると想定。「一般来場者の満足度向上」を目指し、会場規模を展示ホール9、イベントホールまで増床し、会場内レイアウトについても見直しを図るなど混雑緩和の施策を実施した。
加えて、ゲームの試遊以外の楽しみ方を提供するため、吉本興業とのコラボレーション企画やゲーム関連映画上映会など様々な主催者企画を試みた他、乙女ゲームコーナー、インディーゲームコーナーなど新しいジャンルの展開にも挑戦。
新たな出展社、ユーザーの獲得に成功した。

BtoBについては、昨年に引き続きビジネス機能を強化するためにアポイントシステムを7月から稼働。その結果、出展社とビジネスデイ来場者の商談申込件数は、昨年の2.4倍の1325件、確定した商談件数は、前年の75%増の555件となった。
特に、今年から、マッチングコーディネーター制度を導入し、ニーズに合った商談先の絞り込み、アポイントの提案などを実施した。
また、国際ビジネス相談コーナーでは、米国5社、ブラジル2社、仏国1社、英国1社、カナダ1社、中国1社の計11社11人のバイヤーをJETROが主導で招へい。国際会議場のビジネスミーティングコーナー内に、専用商談スペースを設置して、国内ゲーム企業との商談会をビジネスデイの2日間に渡り開催。海外ビジネス最新事情セミナーをJETROと共同開催するなど、海外のビジネスパーソンを積極的に誘引した。

●規模
出展社数：352社（国内190社、海外162社）　※過去最多
展示小間数：1,539小間
参加国：33の国、地域　※過去最多
出展タイトル：962タイトル

●出展コーナー
一般展示／物販／ゲームスクール／スマートフォン・ソーシャルゲーム／ゲームデバイス／アジアニュースターズ／ビジネスソリューション／クラウド・データセンターパビリオン／クラウドゲーミング／乙女ゲーム／スマートフォンアクセサリーコレクション／インディーゲーム／ファミリー／コスプレ／ビジネスミーティングエリア／ビジネススタートアップ

オフィシャルイベント　Japan Game Awards：2013 日本ゲーム大賞

名　称：日本ゲーム大賞2013
会　期：2013年9月19日（木）～9月22日（日）
会　場：幕張メッセ「東京ゲームショウ2013」イベントステージ
主　催：（一社）コンピュータエンターテインメント協会（CESA）
後　援：経済産業省
対　象：コンピュータエンターテインメント業界関係者及び一般
来場者数：約2500人

■内容
東京ゲームショウ2013会期中3日間に亘り開催された「日本ゲーム大賞2013発表授賞式」は、日本を代表するトップクリエイターが一堂に介し、業界関係者、一般来場者など多くの出席者のもと盛大に執り行われた。

●**「経済産業大臣賞」**（発表授賞式：9月19日（木）16:00～16:20）
日本の家庭用ゲーム産業の発展に寄与された人物ならびに制作チーム等の団体に贈られる賞。本年は、「パズル＆ドラゴンズ開発チーム」が選出された。
＜受賞理由＞
スマートフォン対応ゲームとして社会的なムーブメントを起こし、スマートフォンのゲームユーザー層を拡大するなどゲーム産業の発展に貢献した事を評価しての受賞。

●**年間作品部門**（発表授賞式：9月19日（木）16:20～18:10）
対象作品：2012年4月1日から2013年3月31日までの間、日本国内でリリースされた作品。年間を代表するにふさわしい最も優れた作品に贈られる「大賞」には、任天堂株式会社の「とびだせ どうぶつの森」が選出された。
その他「優秀賞」11作品、選考委員からの推薦により贈られる「特別賞」には、ガンホー・オンライン・エンターテインメント株式会社の「パズル＆ドラゴンズ」が選出された。

●**ゲームデザイナーズ大賞**（発表授賞式：9月19日（木）16:45～17:00）
対象作品：2012年4月1日から2013年3月31日までの間、日本国内でリリースされた作品。第4回目となる本賞の受賞作品には、「The Unfinished Swan」（開発元：Giant Sparrow.／日本の発売、販売元：㈱ソニーコンピュータエンタテインメント）が選出された。
【概要】
クリエイターが作り手の視点から高い独創性を持ち且つ、ゲームの歴史にその名を刻むべき革新的な作品を選出、称える賞として昨年より設けられた賞。桜井政博氏を審査員長に同賞の趣旨に賛同頂いた日本を代表する10名のクリエイターによる審査員によって受賞作品を決定。

●**「アマチュア部門」**（発表授賞式：9月21日（土）10:30～11:30）
対象作品：アマチュアの方が制作したオリジナルの未製品化作品。
応募総数282作品の中から、業界詩編集者、クリエイターによる審査を経て、佳作4作品、優秀賞5作品、特別賞1作品の合計10作品が受賞作品として選出された。
優秀賞5作品の中から、HAL大阪の「Toy Revo」が最も優れた作品として「大賞」を受賞した。

●**フューチャー部門**（発表授賞式：9月22日（日）12:00～13:30）
対象作品：「東京ゲームショウ2013」に出展、発表された未発売作品。
「東京ゲームショウ2013」会期中に来場者投票を実施。その後、日本ゲーム大賞選考委員による審査を経て、今後が期待される作品として、11作品が選出された。









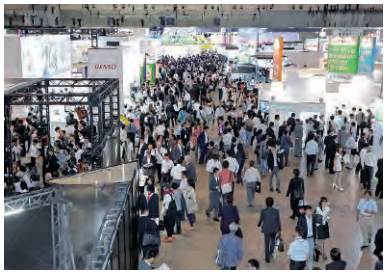




オフィシャルイベント　CEATEC JAPAN

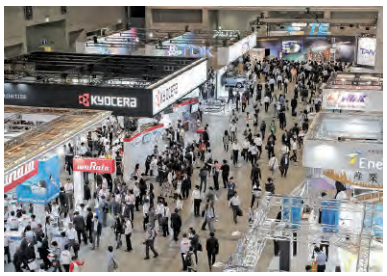












名　称：CEATEC JAPAN 2013
会　期：2013年10月1日（火）～10月5日（土）
会　場：幕張メッセ
主　催：CEATEC JAPAN実施協議会
　　（一社）電子情報技術産業協会（JEITA）
　　（一社）情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）
　　（一社）コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）
後　援：■総務省／外務省／経済産業省（建制順）
　　■㈱日本貿易振興機構（ジェトロ）／
　　㈱新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）／
　　㈱産業総合研究所／㈱情報通信研究機構（NICT）／
　　㈱情報処理推進機構（IPA）／㈱中小企業基盤整備機構／
　　㈱国際観光振興機構（日本政府観光局）
　　■千葉県／千葉市
　　■日本放送協会／（一社）日本民間放送連盟
　　■（一社）日本経済団体連合会／日本商工会議所／東京商工会議所／
　　千葉商工会議所
　　■アメリカ合衆国大使館商務部／駐日欧州連合代表部／
　　英国大使館貿易・対英投資部／カナダ大使館／
　　フランス大使館企業振興部－ユビフランス
対　象：IT・エレクトロニクス業界関係者、および一般ユーザ
来場者数：141,348人

■内容

10月1日より幕張メッセにて開催したCEATEC JAPAN 2013は、587社・団体（うち海外：18カ国・地域から163社・団体）が出展し、5日間の会期を終え閉幕した。
今年のCEATEC JAPANでは『Smart Innovation －明日の暮らしと社会を創る技術力』をテーマに、「自動車」「医療・ヘルスケア」「エネルギー」などの産業と融合した技術革新や、4K/8K高精細テレビ等の次世代映像技術によってもたらされる新しいライフスタイルが数多く提案され、IT・エレクトロニクスの最新動向と、産業の活力と底力が発信された。
また、今年はIT・エレクトロニクス産業と自動車産業との連携がさらに深まった年でもあった。IT・エレクトロニクスとの融合によって現実化されつつある車の自動運転や車の安全・快適性を支えるデバイス、本年秋に開催されるITS世界会議東京2013、東京モーターショー2013との連携シンポジウム等、IT・エレクトロニクスと車の関連性の深化を示す展示、イベントが多数行われた。
「ライフ＆ソサエティステージ」では、4Kテレビを始めとする次世代映像技術や、ウェアラブル端末等の最新モバイルデバイス、超高速・大容量通信への期待が深まる5G（第五世代通信）等の次世代無線通信技術、家とエネルギーと家電をつなぎ制御するHEMSやV2H（Vehicle to Home）、ICTの利活用を促進するクラウドサービス等、人々の生活をより豊かに、より快適にする技術、製品、サービスなどに注目が集まった。
「キーテクノロジステージ」では、世界の“イノベーション”を支える世界最先端の電子部品・デバイスを紹介するステージとして、自動車の電装化や製品機能をコントロールするセンシングデバイス、非接触による情報伝達を実現するNFC（近接無線通信）技術、スマートフォンやタブレット端末等の小型化やエネルギー効率向上を支えるキーデバイス、医療・福祉機器向け各種デバイスなど、世界最先端の高機能電子部品等が紹介された。
「ICT Suite/Electronics Suite」では、クラウドコンピューティングプラザやプログラマブル デバイスプラザ等、ビジネストレンドをとらえた「テーマプラザ」が集約され、また、リサーチパークでは、大学研究室、大学発ベンチャー企業、企業や公的機関の研究機関・研究所などが、IT・エレクトロニクスの研究技術を紹介した。
最終日の10月5日の土曜日は、入場料が無料となり、今年もジュニア＆キッズ電子工作教室や全日本ロボット相撲大会には多くのヤング・エンジニアが訪れ、行列ができる盛況さだった。

オフィシャルイベント CMT

名　称：CMT
会　期：2013年10月1日 – 2014年3月31日
会　場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA（東京都港区台場2-6-1）ほか
主　催：（公財）ユニジャパン（経済産業省 関東経済産業局 補助事業）
共　催：なし
後　援：なし
対　象：CMT会員企業およびクリエイティブ関連企業
来場者数：22,738人

■内容
CMTは、公益財団ユニジャパンが経済産業省 関東経済産業局の補助を受けて運営されるクリエイティブ産業の活性化を目的とし、年間を通じて行われるネットワーク事業である。
本年度は、参加企業の会員化へ移行し、クリエイティブを中心とした企業とその隣接する関連企業を会員として加入をいただき会員数は、およそ200社となった。
会員は、CMTのネットワークを介して接点を持った会員企業3社からななるプロジェクトチームを組成し、新商品・サービス・コンテンツ開発や販路拡大のための海外を含めた新規市場開拓などを目的として実質的なビジネス活動を行っている。
さらには、そのプロジェクトを支援するべく専門家サポート体制を用意し、円滑なプロジェクト推進へ向けて体制も整備した。
10月には、Japan Content Showcase 2013内にて、CMTが「TOKYO OPEN CREATIVE CONFERENCE」と題し、ビジネスプロジェクト推進のためのフォーラムを開催。
テーマは、「資金調達」「人材発掘」「パートナー企業募集」のビジネスのポイントに焦点を当て開催した。

■開催概要
第1部「コンテンツ×クラウドファンディングの最前線」
映像コンテンツにおける新たな資金調達手法として注目されるクラウドファンディング。複数のクラウドファンディング事業者に参加いただき、エンタテインメント弁護士や公認会計士による法務的・ 会計的な視点も加えながら、より多くの資金を調達するために必要な取り組みを中心に今後のコンテンツ×クラウドファンディングの未来予測を行った。
第2部「Creative Hack Award 2013 ピッチセション」
未来のトレンドを発信する「Wired」が主催するクリエイティブアワード「Creative Hack Award 2013」。「既成概念を壊して（＝ハックして）前へと進む野心とヴィジョン」というテーマのもとに集結した多数のクリエイターのうち、厳正な審査により選考された成績優秀者がピッチを行った。
第3部「CMTプロジェクトピッチセッション」
創造的なアイデアや社会的意義のある取り組みをもとにした企画の実現を目指すプロジェクトリーダーが、ビジネスパートナー獲得のためにピッチを行った。企画は、ゲーミフィケーションによる新サービスの提案、古地図と連動した街歩きアプリの開発、キャラクターを軸にした教育パッケージ開発、ファッションブランドの海外展開など多岐にわたった。

■年間活動
定期的な会員相互のマッチング交流会を設け、さまざまな企業との交流から新たなビジネス化の機会を用意している。また、交流会などでは、クリエイティブの最新トピックなどによる、セミナーも開催している。
また、ビジネス化に必須となる資金調達について、新たなファイナンスの手法としてとして注目されるクラウドファンデング・カンファレンスを開催、さらにエンタテイメント業務の経験豊かな弁護士による法務相談会などを開催し、多角的に会員への支援を行った。









オフィシャルイベント　Mercedes-Benz FashionWeek TOKYO


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization


© Japan Fashion Week Organization

名　称：Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO 2014 S/S
会　期：2013年10月14日～19日
会　場：渋谷ヒカリエ／メルセデス・ベンツ コネクション
主　催：（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構
共　催：
後　援：経済産業省など
対　象：
来場者数：158,352人

■内容
渋谷ヒカリエを中心に開催される、「Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO（以下、MBFWT）」は、国内最大のファッションの祭典です。渋谷ヒカリエをはじめ、都内の様々な開場での関連イベントも数多く開催。

MBFWT 2014 S/Sでは、37メゾンが参加し、初日はイタリアから「MISSONI」が来日、オープニングショーを飾りました。その後、オープニング・セレモニーでは松島みどり経済産業副大臣などにもご登場いただき、盛り上がりました。

ほか、会期中、メイン会場である渋谷ヒカリエでは、「スイーツ・カクテル・雑貨ランウェイ」と称して、各売り場でコラボレーション商品を展開。ショー会場だけでなく、街との連携として、渋谷が盛り上がりました。

※詳細はHPでも紹介しております。
http://tokyo-mbfashionweek.com/jp/

オフィシャルイベント

名　称：第40回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール
会　期：2013年10月17日（木）～24日（木）
会　場：NHK放送センター
主　催：日本放送協会
対　象：国内、海外の教育コンテンツ関係者、研究者ほか
来場者数：756人

■内容
「日本賞」は教育コンテンツの質の向上と国際理解の促進を目的として1965年に創設され、今回で40回目の開催となった。今年は世界57の国と地域から331の作品が寄せられ、一次審査を通過した作品を、世界10の国と地域から招かれた制作者、研究者やジャーナリストにより構成される国際審査委員12人が試写・議論し審査を行った。
会期中には、一次審査通過作品を上映し、制作者と参加者が議論するイベントや、都内の小学校でのメディアを使った教育現場の視察に加え、メディアや教育の最前線で活躍する専門家が議論する制作者会議も実施し、多くの参加者で賑わった。最終日の授賞式では「グランプリ日本賞」ほか受賞作品が発表され閉幕した。

1．エントリー
331作品（コンテンツ部門299、企画部門32）が57の国と地域の208機関からエントリーされた。うち初参加の機関・団体は104。

2．主な受賞作品
コンテンツ部門　グランプリ日本賞
「カルチャーショック」
ゼニット映像制作、RAIエデュケーショナル、2+1、欧州連合（EU）メディアプログラム支援作品
企画部門　最優秀賞：放送文化基金賞
「通学路は大自然」
スリランカ放送協会

3．授賞式（10月24日　放送センター　101スタジオ）
皇太子殿下のご臨席のもと、各賞の受賞者、審査委員（10か国・地域12人）、参加者、各賞授与団体（総務省、文部科学省、外務省、経済産業省、東京都他）、大使館関係者など286人の出席者を迎えて実施した。司会はモデルの知花くららと、NHKアナウンサーの井上二郎。

4．日程

10月17日（木）	開会式
10月17日（木）～21日（月）	本審査
10月21日（月）	一次審査通過作品上映会
10月22日（火）～23日（水）	教育コンテンツ世界制作者会議（IPCEM）、小学校訪問
10月24日（木）	受賞作品上映会　授賞式　受賞者パーティー

5．参加者一覧
会期中のイベント　218人（海外66人、国内152人）
授賞式286人、受賞者パーティー252人（32か国・地域）

6．関連番組
「第40回日本賞授賞式～輝け！教育コンテンツ世界一～」
11月2日（土）　午後1時～2時　　Eテレ
「2013日本賞 presents　世界のとっておきテレビ」
12月1日（日）　午後3時～4時　　Eテレ
「学校はどう変わるのか～世界の教育事情最前線～」
12月28日（土）午後10時～10時43分　Eテレ
「まるごと紹介！　2013年日本賞受賞作品」
12月30日（月）午後1時5分～3時30分　Eテレ













オフィシャルイベント　文化庁映画週間



平成 25 年度 文化庁映画賞贈呈式


平成 25 年度 文化庁映画賞受賞記念上映会



シンポジウムー MOVIE CAMPUS ー


上映会『時代劇へようこそ～先ず、粋（いき）にいきましょう』

名　称：第 10 回文化庁映画週間
会　期：2013 年 10 月 17 日（木）～10 月 24 日（木）
会　場：グランドハイアット東京／シネマート六本木／
　　六本木アカデミーヒルズ 49 タワーホール
主　催：文化庁
共　催：（公財）ユニジャパン
協　力：日活㈱／東宝㈱／松竹㈱／㈱KADOKAWA
提　供：東京国立近代美術館フィルムセンター／㈱国際交流基金／
　　川喜多記念映画文化財団
対象：映像業界関係者、一般ほか
来場者数：943 人

■内容

●平成 25 年度 文化庁映画賞贈呈式

10 月 17 日（木）　18：00～
・文化記録映画部門
　文化記録映画大賞　『先祖になる』（池谷 薫）
　文化記録映画優秀賞　『異国に生きる　日本の中のビルマ人』（土井 敏邦）
　文化記録映画優秀賞　『福島 生きものの記録 シリーズ 1～被曝～』（岩崎 雅典）
・映画功労部門
　粟木原 毅（映画照明）／池端 松夫（映画美術・塗装）／
　今村 治子（スクリプト）／鵜飼 邦彦（映画編集）／澤登 翠（活動写真弁士）／
　斯波 重治（音響監督）／杉野 昭夫（キャラクターデザイン・作画監督）／
　須佐見 成（タイミング）／本田 孜（映画録音）

●平成 25 年度 文化庁映画賞受賞記念上映会

10 月 20 日（日）
11：00～　『異国に生きる　日本の中のビルマ人』
14：00～　『福島 生きものの記録　シリーズ 1～被曝～』
16：40～　『先祖になる』

●シンポジウムー MOVIE CAMPUS ー

10 月 22 日（火）13：30～
第一部『時代劇へようこそ～先ず、粋（いき）にいきましょう』
・ゲスト：小泉 堯史（映画監督）／黒澤 和子（衣裳デザイナー）／
　澤登 翠（活動写真弁士）／高橋 剣（プロデューサー）／
　能村 庸一（プロデューサー）
・モデレーター：佐伯 知紀（文化庁文化部芸術文化課 主任芸術文化調査官）
［活弁付き上映］
『斬人斬馬剣』＜デジタル復元版＞（伊藤 大輔 1929）
第二部『わが家を名画座に～いい映画の見つけ方教えます』
・ゲスト：河井 真也（日本映画衛星放送㈱、映画プロデューサー）／
　岡本 圭三（㈱KADOKAWA 映像営業局 映像管理部 部長）／
　柾谷 大地（㈱紀伊國屋書店 映像課 係長）／
　勝江 正隆（カルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱ TSUTAYA 発掘良品ディレクター）／
　渡邉 健（カルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱ 執行役員 兼 ㈱T-MEDIA ホールディングス
　　TSUTAYA.com 事業本部 映像営業 Unit Unit Leader）／
　雅子（モデル）
・モデレーター：田中 文人（東京国際映画祭 作品チーム）

●上映会『時代劇へようこそ～先ず、粋（いき）にいきましょう』

10 月 19 日（土）
10：30～　『決闘高田の馬場』（マキノ 正博／稲垣 浩 1937）
12：20～　『赤ひげ』（黒澤 明 1965）
10 月 24 日（木）
10：50～　『螢火』（五所 平之助 1958）
13：50～　『座頭市血笑旅』（三隅 研次 1964）

オフィシャルイベント

名　称：第26回東京国際映画祭
会　期：2013年10月17日（木）～10月25日（金）
会　場：六本木ヒルズ（港区）ほか
主　催：（公財）ユニジャパン（第26回東京国際映画祭実行委員会）
共　催：経済産業省（マーケット部門）／東京都（コンペティション部門）
後　援：総務省／外務省／環境省／観光庁／港区／㈱国際交流基金／㈱日本貿易振興機構／
東京国立近代美術館フィルムセンター／（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団／（公財）JKA／
（一社）日本経済団体連合会／東京商工会議所／（一社）日本映画製作者連盟／
（一社）映画産業団体連合会／（一社）外国映画輸入配給協会／
モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）／全国興行生活衛生同業組合連合会／
東京都興行生活衛生同業組合／特定非営利活動法人映像産業振興機構／（一社）日本映像ソフト協会／
（一財）角川文化振興財団／（一財）デジタルコンテンツ協会／（一社）デジタルメディア協会
支　援：文化庁
補　助：（公財）JKA（競輪補助事業）
オフィシャルパートナー：木下グループ／日本コカ・コーラ㈱／
キャノン㈱・キャノンマーケティングジャパン㈱
協　賛：大和証券グループ／ソニー㈱／ペルノ・リカール・ジャパン㈱／フィールズ㈱／BEYOND: Two Souls／
森ビル㈱／アウディジャパン㈱／ソニーPCL㈱／凸版印刷㈱／㈱WOWOW／㈱TASAKI／
カルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱／松竹㈱／東宝㈱／東映㈱／㈱KADOKAWA／日活㈱／
富士フィルム㈱／TOHOシネマズ㈱／（一社）映画演劇文化協会
オフィシャルデジタルパートナー：ヤフー㈱／㈱Gyao
特別協力：読売新聞
オフィシャルラジオ：J-WAVE
協　力：CineGrid／帝人㈱／テレビ朝日／ゲッティイメージズ ジャパン㈱／㈱クララオンライン／TOKYO MX／
LINE㈱／スピック＆スパン ノーブル／シダックス㈱／㈱Jストリーム／MTV Networks Japan㈱
対　象：海外招聘ゲスト、国内招聘ゲスト、業界関係者、一般
来場者：121,771人

■内容

●オープニング：10月17日（木）　六本木エリアにて
グリーンカーペット、オープニング・セレモニー、公式オープニング上映『キャプテン・フィリップス』、オープニング・レセプション

●クロージング上映『清須会議』：10月24日（木）TOHOシネマズ　六本木ヒルズにて
クロージング上映『人生の特等席』、

●クロージング：10月25日（金）　六本木エリアにて
クロージングセレモニー（各賞授賞式）、感謝の夕べ（懇親会）

●作品上映：主要部門
コンペティション、特別招待作品、アジアの未来、日本映画スプラッシュ、ワールド・フォーカス

受賞結果：

東京 サクラ グランプリ	『ウィ・アー・ザ・ベスト!』
審査員特別賞	『ルールを曲げろ』
最優秀監督賞	ベネディクト・エルリングソン『馬々と人間たち』
最優秀女優賞	ユージン・ドミンゴ『ある理髪師の物語』
最優秀男優賞	ワン・ジンチュン『オルドス警察日記』
最優秀芸術貢献賞	アーロン・フェルナンデス『エンプティ・アワーズ』監督
観客賞	『レッド・ファミリー』
アジアの未来 作品賞	『今日から明日へ』
アジアの未来 スペシャル・メンション	『祖谷物語ーおくのひとー』
日本映画スプラッシュ 作品賞	『FORMA』

●マーケット
TIFFCOM2013 Marketplace for Film & TV in Asia
TIFFCOM2013 コ・プロ　コネクション

●共催・提携企画
第10回文化庁映画週間、映像シンポジウム、第35回PFFぴあフィルムフェスティバル、みなと上映会、日本映画監督協会新人賞・上映とシンポジウム、映画の未来～バリアフリー上映に対応する新しい劇場設備と、バリアフリー上映によって広がる観客の可能性についてのシンポジウム、東京国際映画祭 円谷創立50周年企画、8Kスーパーハイビジョン スペシャルプレゼンテーション by TIFF × NHK、「映画館へ行こう!」実行委員会×スカパー! 第2回新作映画イッキにみせます in 東京国際映画祭、子どもたちの世界映画祭21stキンダー・フィルム・フェスティバル、第6回したまちコメディ映画祭in台東、コリアン・シネマ・ウィーク2013、ショートショート フィルムフェスティバル＆アジア「フォーカス・オン・アジア＆ワークショップ」、2013東京／沖縄・中国映画週間、第10回ラテンビート映画祭、第3回日本学生映画祭、第7回田辺・弁慶映画祭、ポーランド映画祭2013、日米フィルムアカデミー、CineGrid@TIFF 2013、MPAセミナー／映画配信の将来、「デジタル時代の映画保存の在り方について」


© 2013 TIFF


© 2013 TIFF


© 2013 TIFF


© 2013 TIFF


© 2013 TIFF


© 2013 TIFF

オフィシャルイベント

INTERNATIONAL DRAMA FESTIVAL in TOKYO











名　称：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2013
会　期：2013年10月22日（火）
会　場：東京プリンスホテル
主　催：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会
（構成団体）
（一社）日本民間放送連盟／㈱TBSテレビ／日本テレビ放送網㈱／
㈱テレビ朝日／㈱フジテレビジョン／㈱テレビ東京／㈱WOWOW／
日本放送協会／スカパーJSAT㈱／（一社）日本映画製作者連盟／松竹㈱／
東宝㈱／東映㈱／㈱KADOKAWA／（一社）日本音楽事業者協会／
（公社）芸団協・実演家著作隣接権センター／
（一社）全日本テレビ番組製作社連盟／NPO法人映像産業振興機構／
（一社）日本映画テレビプロデューサー協会
共　催：総務省／経済産業省
協　賛：㈱電通／㈱博報堂ＤＹメディアパートナーズ
連携企画：TIFFCOM
対　象：業界関係者/バイヤー
来場者数：800人

■内容

●「東京ドラマアウォード2013」授賞式・パーティ

・司会
石坂浩二、馬場典子（日本テレビ放送網アナウンサー）
・ゲスト
瑛太、能年玲奈、綾野剛、小泉今日子、西島秀俊、刈谷友衣子、
宮藤官九郎　など

●「東京ドラマアウォード2013」受賞作品

作品賞＜連続ドラマ部門＞
グランプリ　『あまちゃん』　NHK
優秀賞　『泣くな、はらちゃん』　日本テレビ放送網
優秀賞　『ドクターX～外科医・大門未知子』　テレビ朝日
優秀賞　『とんび』　TBSテレビ
優秀賞　『孤独のグルメ Season2』　テレビ東京
優秀賞　『ガリレオ』　フジテレビジョン

作品賞＜単発ドラマ部門＞
グランプリ　『ダブルフェイス～潜入捜査編・偽装警察編～』
TBSテレビ・WOWOW
優秀賞　『ラジオ』　NHK
優秀賞　『金田一少年の事件簿 香港九龍財宝殺人事件』
日本テレビ放送網
優秀賞　『最後から二番目の恋 2012秋』　フジテレビジョン

ローカル・ドラマ賞
『狸な家族』　NHK徳島放送局
『名古屋行き最終列車』　名古屋テレビ放送

海外作品特別賞
『虹の兵士たち』（インドネシア）
『馬医』（韓国）
『アユタヤの戦士』（タイ）

オフィシャルイベント　TIMM 2013 10th TOKYO INTERNATIONAL MUSIC MARKET

名　称：第10回東京国際ミュージックマーケット
会　期：2013年10月22日～24日
会　場：ホテルグランパシフィックLE DAIBA／Zepp DiverCity TOKYO
共　催：経済産業省／(一財) 音楽産業・文化振興財団／(公財) ユニジャパン／
　　(一社) 日本動画協会
協　力：(一社) 日本レコード協会／NPO法人映像産業振興機構
後　援：外務省／(一社) 日本音楽著作権協会／(公社) 日本芸能実演家団体協議会／
　　(一社) 日本音楽事業者協会／(一社) 日本音楽出版社協会／
　　(一社) 日本音楽制作者連盟／(一社) コンサートプロモーターズ協会／
　　(一社) 私的録音補償金管理協会／㈱日本貿易振興機構
対　象：音楽を中心とするコンテンツ関係者（ショーケースライブ：一般客を無料招待）
来場者数：22,738人（3マーケット合計）

■内容

1．海外招聘バイヤー数：14カ国地域80名
イギリス、フランス、ドイツ、ルーマニア、アメリカ、カナダ、ブラジル、中国、香港、韓国、マレーシア、シンガポール、台湾、オーストラリア

2．ビジネスセミナー　※ (一社) 日本音楽出版社協会共催セミナー
- 日　時：10月22日 (火) 14:00～16:00
- 会　場：ホテルグランパシフィックLE DAIBA「セミナールーム」
- テーマ：アジアの著作権ビジネス事情 ～印税は回収できるのか～
- 来場者：222名

3．個別商談会
- 日　時：10月22日 (火)～24日 (木) 9:30～18:30 (最終日のみ17:30終了)
- 会　場：ホテルグランパシフィックLE DAIBA
- 出展社：TIMM：46社 (国内43社、海外3社)

4．ショーケースライブ

①商談会会場におけるショーケースライブ
- 日　時：10月22日 (火) 12：30～13：30
- 会　場：ホテルグランパシフィックLE DAIBA「セミナールーム」
- 出演者：（4組／出演順）
  チャラン・ポ・ランタン、Makimiki、山崎千裕+ROUTE14band、ヤナキク
- 来場者：153名

②J CS 2013オープニング レセプションにおけるショーケースライブ
- 日　時：10月22日 (火) 19:00～21:00
- 会　場：Zepp DiverCity TOKYO
- ライブ出演者 (4組／出演順) アイドルカレッジ、A応P、テレパシー、SKE48
- 来場者：755名

③ZeppCiverCityTOKYOにおけるショーケースライブ
- 日　時：10月23日 (水) 16:30～21:00
- 会　場：Zepp DiverCity TOKYO
- 出演者：（17組／出演順）
  鈴華ゆう子with和楽器バンド、Mayu Wakisaka、Little Glee Monster、いとうかなこ、さんみゅ～、アリス十番／スチームガールズ@仮面女子、松下唯、でんぱ組.inc、シシド・カフカ、Buffalo Daughter、moumoon、THE MAN、CREAM、UNISON SQUARE GARDEN、So'Fly、OKAMOTO'S、川畑 要
- 来場者：1,000名

5．広報
- TV
  NTV「ZIP!」10/23
  NHK「WORLD NEWSLINE」10/29
  NHK「J-MELO」(TIMM特集) 海外12/8　国内12/14
- 活字、WEB
  「オリジナルコンフィデンス」(CoFesta2013特集) 10/21号
  「東京中日スポーツ」「スポーツ報知」10/23
  「PROMIC TV」(TIMM特集) 11/5、12、19、26、12/3、10
  他、業界紙、Web系ニュース多数













オフィシャルイベント

TIFFCOM 2013
Marketplace for Film & TV in Asia













名　称：TIFFCOM2013 Marketplace for Film & TV in Asia
会　期：2013年10月22日（火）～24日（木）
会　場：ホテル グランパシフィック LE DAIBA
主　催：経済産業省／（公財）ユニジャパン
共　催：第26回東京国際映画祭
後　援：（一社）映画産業団体連合会／（一社）衛星放送協会／
特定非営利活動法人 映像産業振興機構／
（一社）外国映画輸入配給協会／
（一社）コンピュータエンターテインメント協会／
協同組合 日本映画製作者協会／（一社）日本映画製作者連盟／
（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本経済団体連合会／
㈱日本貿易振興機構／（一社）日本民間放送連盟／
（一社）日本レコード協会
対　象：映画、テレビ、アニメーション、コミック、デジタルメディアコンテンツ、音楽、出版などコンテンツホルダー
のべ来場者数：22,738名

■内容

●出展者データ

出展団体数：316　※過去最高を記録
出展参加国と地域数：26の国と地域
出展内訳：日本156　海外160（日本49%：海外51%）
海外パビリオン：カンボジア・カナダ・インドネシア・韓国（映画・TV）・マレーシア・スペイン・台湾・タイ・イギリスの計9の国と地域より10団体
※カンボジアが初出展。

●バイヤー登録数：1,074名

◆TIFFCOM コ・プロ コネクション

Make your project shine in Tokyo!

日本と海外との実写・アニメーション映画の国際共同製作を目指す製作者たちが集うコ・プロ コネクション。今年度は「企画マーケット」から「コ・プロ コネクション」と名前を新たにし、よりネットワーキングに特化したイベントとして開催、活気あるミーティングの場として活用された。

参加企画数：20件（日本5、欧州6、韓国5、米国2、中国1、香港1）
セミナー：9講（7講は日欧コ・プロダクションラボとして参加者限定で実施）
企画ピッチング・セッション：15件
個別ミーティング：208件
ラウンドテーブル形式のプロデューサーたちの名刺交換会：2回　48名
参加企画プロデューサーや業界関係者との交流会：1回　133名

- 欧州のプロデューサー団体Ateliers du cinéma européen (ACE)と共同で「日欧コ・プロダクションラボ」を同時開催
- KOFIC（韓国映画振興委員会）との連携を継続

オフィシャルイベント　Tokyo International Anime Festival

名　称：Japan Content Showcase 2013（東京国際アニメ祭2013秋TIAF2103）
会　期：平成25年10月22日（火）～24日（木）
会　場：ホテルグランパシフィックLE DAIBA
主　催：（一社）日本動画協会
協　力：独立行政法人　日本貿易振興機構
後　援：東京都、NPO法人映像産業振興機構
対　象：国内外のバイヤー、アニメ・映像・音楽ビジネス関係者
来場者数：22,738人（TIMM、TIFFCOM、TIAF　3マーケット合計）

■内容
TIAF2013は、国内外のバイヤーや日本のアニメ作品の版権を利用したビジネスを行う方を対象としたBtoBのマーケットであり、今回で4回目の開催。
場所は昨年度より開催している、お台場の〝ホテルグランパシフィックLE DAIBA〟での開催。今年は合同マーケットとして名称も『Japan Content Showcase』と決まり、より一層の賑わいのあるマーケットとなった。
その他セミナー等も開催し、アニメ業界の最前線の情報を皆様にお届けした。

【出展社】10社／10小間
話題のTVシリーズや最新劇場版等のアニメ作品を国内外に広く発信し、活発な商談が行われた。また「AnimeJapan2014」や「東京アニメアワードフェスティバル2014」の開催案内等今後に向けたPRも行われた。

【セミナー】
◆10月23日（水）14:30～16:00　（参加者：100名）
「日本のアニメ産業の今」～アニメ産業レポート2013～
増田弘道 氏（㈱ビデオマーケット取締役）
日本動画協会が毎年製作しているアニメ業界レポートを教本とし、日本のアニメ産業の動向を豊富なデータに基づきながら解説。昨年同会場内のセミナーで大変好評であった「アニメ産業レポート2013」を参加者に無料配布した。

◆10月24日（木）13:30～14:30　（参加者：87名）
「アニメビジネス・パートナーズフォーラム第2期成果・第3期プログラム発表会
クロスメディア・異業種共同で海外展開・新業態開発」
モデレーター／ 小野打恵 氏（㈱ヒューマンメディア 代表取締役社長）
陸川和男 氏（㈱キャラクター・データバンク 代表取締役社長）
登壇／ 石田亘 氏（スカパーJSAT㈱ 事業戦略部 スカパー!エブリウェア推進チーム）
伊藤直史 氏（㈱アサツーディ・ケイ コンテンツ本部コンテンツ営業推進局部長）
安原淳 氏（鹿島建設㈱ 海外事業本部 開発部）
野林徳行 氏（㈱レッグス 取締役バリュークリエーションセンター本部長 兼 新規事業開発本部 物販事業部 部長）
アニメビジネス・パートナーズフォーラム（ABPF）は、2012年9月のオープニングセミナー以来、日本動画協会が主催し数多くの団体の協力を得て、第1期、第2期と各約80～90社がパートナービジネス開発に向けて活動を行ってきた。国内外の関連関係者に本フォーラムの内容や、第2期の成果発表と第3期のプログラム等の案内を行った。

◆10月24日（木）16:30～17:30
「ビジネスマッチングセッション」
先に開催していた、「アニメビジネス・パートナーズフォーラム」「CMTビジネスプロジェクト推進フォーラム」参加者や、来場者などによる交流会が行われた。








オフィシャルイベント

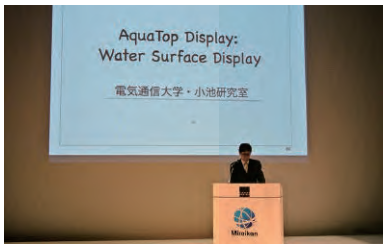

展示ブース



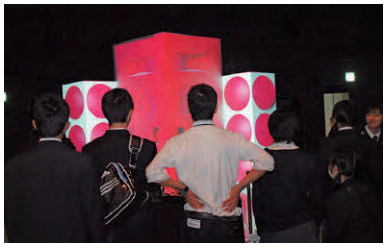
Features2013 セミナー



表彰式



採択技術のプレゼンテーション


プロジェクションマッピングの展示


展示会場

名　称：デジタルコンテンツ EXPO 2013
会　期：2013年10月24日（木）～26日（土）
会　場：日本科学未来館
主　催：経済産業省／（一財）デジタルコンテンツ協会
共　催：日本科学未来館
後　援：総務省／外務省／文化庁／観光庁／東京都／江東区／東京商工会議所／
CG-ARTS 協会（（公財）画像情報教育振興協会）／（一財）家電製品協会／
（一社）電子情報技術産業協会／
（一社）コンピュータエンターテインメント協会／（一社）日本動画協会／
（一財）VFX-JAPAN／（公財）ユニジャパン／
日本バーチャルリアリティ学会／
超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム／3Dコンソーシアム／
立体映像産業推進協議会／上海マルチメディア産業協会／
日中CG文化交流協会／香港貿易発展局／韓国コンテンツ振興院
対　象：業界関係者及び一般
来場者数：25,318人（延べ）

■内容
【講演・出展数（全体）】
シンポジウム／セミナー／ステージ／ワークショップ：16セッション
展示：31団体
【実施プログラム】

●Innovative Technologies2013（展示／ステージ／表彰）
技術戦略マップ2012（コンテンツ分野）で示されている技術開発の方向性に基づき、他産業への応用や新市場創出の可能性がある先進的な技術を広く公募により選出し、デジタルコンテンツEXPOの会場で一般来場者に向け展示・実演したものである。20件の先進技術が、有識者で構成される審査委員会によって採択、展示され、開催初日に、産業界／学界等の専門家からなる特別賞選考会を実施。そして、その20件の採択技術の中から、特にコンテンツ産業以外の分野への波及・応用の可能性が高い技術として、「Industry」「Culture」「Human」「Ecology」の4つの特別賞を選考し、表彰を行った。

●Features2013
今年注目すべきテーマを「Features2013」として取り上げた。今年はプロジェクションマッピングの展示実演および講演や3Dプリンターのシンポジウムなどを行った。

●特別企画（シンポジウム／セミナー／ステージ）
「Innovative Technologies 2013」の最新技術をステージにて紹介する企画や、米国のCGとインタラクティブ技術の学界であるACM SIGGRAPHの会長Jeff Jortner氏を迎えたシンポジウムを始め、技術戦略マップ2012（コンテンツ分野）に示されているコンテンツ関連の技術開発の方向性にもとづいたシンポジウム、卓越した技術・経験を有する専門家・知識人がその専門分野への見識を披露するシンポジウム等、「デジタルイノベーションの架け橋」として技術の可能性を提示する講演プログラムが実施された。

●International Showcase
海外のコンテンツ及びその関連技術分野の事業者やコンテンツ産業関連機関等が、先端技術に関する展示や講演を行った。本プログラムが、我が国のコンテンツ産業関係者の海外展開の足掛かりとなることを目指した。

●Content Technology Showcase
世界の最先端技術が一堂に会し、研究者、企業やクリエイターが、それぞれの立場からこれからの技術の可能性を考え、社会にイノベーションの姿を提示する場として、展示のほか、シンポジウムやセミナー、ステージイベントまで、それぞれの参加団体が独自の企画で最先端技術を紹介した。

●日本科学未来館　共催企画
日本科学未来館の研究棟にある3つの研究室と連動したワークショップを実施した。研究紹介はもちろん、開発段階にある技術を直接体感していただき、先端のコンテンツ技術の可能性を参加者と一緒に探った。

オフィシャルイベント

名　称：マンガフェスティバル in シンガポール
会　期：2013年11月7日（木）～10日（日）　4日間
会　場：シンガポール国立大学（NUS）／ジャパン クリエイティブセンター（JCC）／
　　紀伊國屋書店シンガポール本店／サンテック・シンガポール
主　催：マンガフェスティバル in シンガポール実行委員会
共　催：経済産業省
協　力：㈱アニメイト／㈱紀伊國屋書店／㈱トーハン／㈱ブックリスタ／
　　デジタルコミック協議会
　　コミック11社会（秋田書店／KADOKAWA／講談社／集英社／小学館／
　　少年画報社／新潮社／日本文芸社／白泉社／双葉社／
　　リイド社（開催時50音順・現コミック出版社の会）
対　象：コミックに関連する現地企業、政府機関、学生、および一般
来場者数：28,662人

■内容
（1）シンガポール国立大学 学生協業講演会
・2013年11月7日（木）シンガポール国立大学 レクチャーシアター8（NUS LT8）
16:30～17:40
“ディズニーとエイゼンシュテインの「野合」”～日本サブカルチャーのファシズム起源をめぐって～
国際日本文化研究センター教授　大塚英志氏
17:50～18:50
“「進撃の巨人」誕生からアニメ化の快進撃”
㈱講談社 週刊少年マガジン編集部　川窪慎太郎氏
㈱講談社 ライツ企画部 副部長　立石謙介氏
㈱ポニーキャニオン クロスメディア制作部 主任　木下哲哉氏（アニメ「進撃の巨人」プロデューサー）
19:00～20:00
“MANGA meets Singapore!”～シンガポール・東南アジアに展開するコミック関連企業とNUS学生のセッション～
アジアンベイシス㈱ 代表取締役社長　十河宏氏
㈱講談社 週刊少年マガジン編集部　川窪慎太郎氏
小学館アジア 代表取締役社長　加治屋文祥氏
㈱ブシロード 代表取締役社長　木谷高明氏
㈱KADOKAWA 代表取締役専務　井上伸一郎氏（モデレーター）
＜学生代表＞Mr. Mun Khay Aw, NUS Student, Japanese Studies Society Representative
Mr. Lim Zhi Quan, NUS Student, Comics and Animation Society Member
Mr. Lim Hon Lee Jeremy NUS Student, Japanese Speech Contest 2013 Winner
（2）現地交流会
・2013年11月8日（金）ジャパン クリエイティブセンター（JCC）
19:00　実行委員長挨拶　㈱KADOKAWA 代表取締役社長　佐藤辰男氏
19:05　主催者挨拶　経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長　佐合達矢氏
19:10　来賓挨拶　シンガポール共和国 経済開発庁 情報通信メディア局（EDB）担当副局長 Mr. Pee Beng Kong
19:20　乾杯　外務省 在シンガポール日本国大使館 参事官 JCC所長 安藤俊英氏
19:30　プレゼンテーションスピーチ　アジアンベイシス㈱ 代表取締役社長　十河宏氏
小学館アジア 代表取締役社長　加治屋文祥氏
角川インターナショナル エデュテイメント㈱
代表取締役社長　古賀鉄也氏
（3）作家サイン会
・2013年11月9日（土）紀伊國屋書店シンガポール本店
13:00　日下秀憲先生、山本サトシ先生、㈱小学館「月刊コロコロイチバン!」編集部 村田直人氏
14:30　田村隆平先生、㈱集英社「週刊少年ジャンプ」編集部 門司健吾氏
16:00　葉月かなえ先生、㈱講談社「月刊デザート」編集部 北原 恵氏
17:30　KEI 先生、㈱KADOKAWA「月刊コンプティーク」編集部 貞松桂太氏
（4）コミック展示会
・2013年11月8日（金）～10日（日）サンテック・シンガポール
東南アジア最大規模の日本ポップカルチャーイベント「Anime Festival Asia」へコミック出版社の共同出展
電子コミック70作品・6サービス、コミックス 676冊、原画・ビジュアル 66作品、コミック原作のアニメーション放映、関連商品の試験販売、海賊版対策、アンケート調査等









オフィシャルイベント Inter BEE 2013

International Broadcast Equipment Exhibition













名　称：Inter BEE 2013
会　期：2013年11月13日（水）～15日（金）
会　場：幕張メッセ
主　催：（一社）電子情報技術産業協会（JEITA）
後　援：総務省、経済産業省（建制順）
　　日本放送協会（NHK）／（一社）日本民間放送連盟（JBA）／
　　（一社）電波産業会（ARIB）（順不同）
対　象：国内外の放送局関係者、CATV、コンテンツ制作者、
　　コンテンツ流通関係者、施設関係者、映像・音響・照明技術者、等
来場者数：31,979人

■内容

Inter BEE 2013は、本年11月13日（水）から15日（金）までの3日間、幕張メッセにて、国内外のトップレベルの放送機器、映像機器、音響機器、照明機器、クロスメディア、周辺アプリケーションやソリューションが一堂に会する、音と映像と通信のプロフェッショナル展として開催した。

今回の開催規模は、過去最多となる出展者数918社・団体（うち海外30カ国・地域から536社）、出展小間数は1,491小間となり、幕張メッセ・展示ホール4から8までを使用して開催した。

〔2012年実績：871社・団体（うち海外35カ国・地域から491社）1,423小間〕

登録来場者数は、3日間を通じて31,979人となり前回実績を上回った。報道関係者は324名が国内外から取材に訪れ、Inter BEEに関する記事や映像が日本のみならず海外各国に向けて発信された。

テレビ放送開始60周年となる今年、49回目の開催を迎えた「Inter BEE」は、「映像・放送関連機材部門」、「プロオーディオ部門」、「プロライティング部門」、「クロスメディア部門」の4部門で構成、放送事業者をはじめ、関連機器メーカ、サービス事業者、コンテンツビジネス関係者、さらには、クリエーターやデザイナーなど、幅広いステークホルダーが一堂に会し、年に一度の最新トレンドの情報発信、情報交流のハブとなる機会として活用された。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定により、大きな期待が寄せられる放送サービスの高度化について、4K/8Kなどの超高精細映像技術、セカンドスクリーンやスマートテレビ、HTML5による動画配信、デジタルサイネージやプロジェクションマッピング等、国内外の様々な企業・団体からメディア産業の今とこれからを指し示す注目の提案が相次いだ。

11月13日（水）には、総務省 南俊行 大臣官房審議官による「放送サービスの高度化に向けて」と題する基調講演が行われ、2020年に向けて新たな取り組みが進む放送とメディアの可能性について展望が語られた。

クロスメディア部門で展開するCross Media Theaterでは、「V-LOWデジタルコミュニティ放送アライアンス & IPDCフォーラム共同企画」、「デザイン エクストリーム セミナー」、「Asia Contents Forum」、「IPDCフォーラムセミナー」など、トップクリエーターや第一線で活躍する国内外のプロフェッショナルがメディアとコンテンツの多様性と可能性を訴求する各種オープンセッションを開催した。

このほか、毎回注目を集める「特別講演」、「映像シンポジウム」、「音響シンポジウム」、「チュートリアル・セッション」、海外からエキスパートを招いて実施する「招待講演」、今回で50回目を迎えた一般社団法人日本民間放送連盟主催の「民放技術報告会」、一般社団法人日本ポストプロダクション協会主催の「ラウドネスワークショップ」も開催し、最新動向を発信した。

さらに、今回初めて、米国NAB Showで同時開催されている有料コンファレンスの日本版を「Japan Post Production Conference」として、Inter BEEで同時開催した。

オフィシャルイベント　30th ATP Awards

名　称：第30回ATP賞
会　期：2013年12月4日（水）
会　場：六本木ハリウッドホール
主　催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
共　催：
後　援：総務省／経産省／観光庁／日本放送協会／（一社）日本民間放送連盟
対　象：製作会社／放送事業者／関係諸団体
来場者数：550人

■内容
●創り手が選ぶ創り手のための賞『第30回ATP賞』のグランプリ発表と受賞式典。
●藤川政人総務大臣政務官、松本正之NHK会長、早河洋民放連副会長、迫本淳一コ・フェスタ実行副委員長よりご祝辞を頂戴した。
●今年度応募総数は過去最多の166本となり、栄えあるグランプリに輝いたのはドキュメンタリー部門『零戦』～搭乗員たちが見つめた太平洋戦争～（NHKエンタープライズ、かわうそ商会／NHK BSプレミアム）
会員社（124社 ※10月末現在）と審査員（審査委員長：金澤 宏次 ユニオン映画㈱）が投じた100票のうち38票を獲得した。
尚、2013年度の受賞作品一覧及び応募作品一覧、審査講評の詳細については、第30回ATP賞ホームページ（http://www.atp.or.jp/award/award_030.html）にて参照の事。



～最優秀賞審査講評～

［ドラマ部門］
『水曜ドラマ Woman』～命をかけて我が子を育てるシングルマザー～　34票
（ケイファクトリー／日本テレビ）
旧来より描かれていた普遍的な母親像だけでなく、多様化する現代の価値観を踏まえて、異なる立場の母親達を配置した点に、バランスのとれた制作者のセンスを感じる。やや強引な設定もあるが、それぞれの境遇にある人物達の心理描写が丁寧なので払拭できている。「お母さんの愛が欲しくて欲しくてたまらないのは女の方」「お風呂も御飯も電車も2人だと簡単にできる事が1人だと急に難しくなる」「男の犠牲にされることを母親って呼ぶんだ」など心に刺さる多くの台詞が、女優陣の熱演と相俟って秀逸なシーンが積み重なっている。



［ドキュメンタリー部門］
『零戦』～搭乗員たちが見つめた太平洋戦争～　38票
（NHKエンタープライズ、かわうそ商会／NHK BSプレミアム）
太平洋戦争で戦闘の最前線に立ち続けた「零戦」の悲劇的な運命をあらゆる角度から検証した番組。特攻隊員・大黒繁男のドラマも効果的。印象深いのは、出動命令を下していた上官と、その家族の証言。死の強要への懺悔は没するまで続き、その長女は父に対し「死んで償うべきだ」と糾弾する。放送時、かの人が亡くなっていることも戦争の真実に迫る取材が時間との戦いであることを実感する。5年に及ぶ丁寧で丹念な取材が結実したテレビ放送60年にふさわしい大作。



［情報・バラエティ部門］
『ケンボー先生と山田先生』～辞書に人生を捧げた二人の男～　28票
（NHKエデュケーショナル／NHK BSプレミアム）
この番組の企画書を読みたいと思った。企画書から、どれだけこの番組が想像出来るのか。一つのセットを縦横無尽に使い、圧倒的な視覚からの刺激と、それを癒すかの薬師丸ひろ子のナビゲート。他作品を寄せ付けないそれはそれは見事な世界観と完成度に感動です。視聴者に対する優しさも抜群！そう「見坊」は「ケンボー」と読むのです。見終えた後、息子の部屋に辞書を探しに行った。



CoFesta 2013

CoFesta2013 Partner Events

コ・フェスタ パートナーイベントとは、コンテンツ産業（ゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画）、およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業の各業界・組織が主催するイベントで国際性、規模等でオフィシャルイベントに準じるものでコ・フェスタ実行本部が認めたイベント。

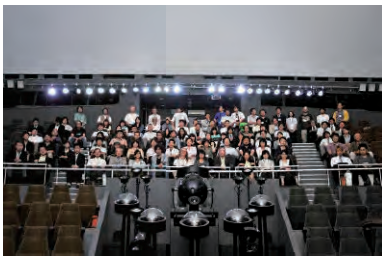
第４回国際科学映像祭
京都国際マンガ・アニメフェア 2013
第 35 回 PFF ぴあフィルムフェスティバル
CREATIVE HACK AWARD 2013
吉祥寺アニメワンダーランド 2013
MPTE AWARDS 2013 第 66 回 表彰式
J-Music LAB
LA EigaFest 2013
第４回 映文連 国際短編映像祭 「映文連アワード 2013」
Tokyo Docs 2013
豪州ジャパン・エキスポ

パートナーイベント　第４回国際科学映像祭

名　称：第４回国際科学映像祭～魅せる科学～
会　期：2013年８月１日（木）～９月29日（日）　60日間
会　場：日本科学未来館、科学技術館、日立シビックセンターを主会場に
　　科学館、プラネタリウム館、シアターなど59施設
主　催：第４回国際科学映像祭実行委員会
共　催：大学共同利用法人自然科学研究機構国立天文台／
　　第５回東京国際科学フェスティバル実行委員会
後　援：文部科学省／㈱宇宙航空研究開発機構／日本プラネタリウム協議会
対　象：一般の皆さま、科学映像コンテンツ制作や技術開発に関わる人々、
　　科学館等映像の上映に関わる人々
来場者数：およそ100万人（期間中の会場館への入館者総数）

■内容
本映像祭の目的は次の３点にある。
①良質な科学映像コンテンツを広く国内外に紹介し、多くの人々に見ていただく機会を提供する。
②コンテンツ制作や技術開発に関わる人々の情報交換を促進する。
③新進クリエータの作品発表の場を設け、国際的に活躍できる場とコミュニティを創出する。
８月１日の日本科学未来館で開催した「キックオフイベント」に始まり、各会場館における科学映像の上映、スタンプラリー、９月15日には科学技術館４階シンラドームでの「サイエンスフィルムカフェ・理研DAY」、16日の同館での「サイエンスカフェ＆ワークショップ」、そして９月22日～25日には茨城県日立市の日立シビックセンター天球劇場において「ドームフェスタ」をそれぞれ開催した。
キックオフイベントでは、裁判員制度での３次元CGの利用を最高検察庁に提案し、証拠画像としての３次元CG制作で、東京大学総長賞及び総長大賞を受賞された医師でサイエンスCGクリエータの株式会社サイアメント代表取締役社長、瀬尾拡文氏の講演会を開催した。ドームフェスタでは内外40作品のドーム映像作品及び科学映像作品を上映した。良質な科学映像を制作するクリエータの育成を目的としたショートプログラムコンテストの実施、そして関連企業ブース展示も行った。また、海外から科学映像制作で著名なDr. Carter Emmart（アメリカ自然史博物館）氏とRyan Wyatt（カリフォルニア科学アカデミー）氏による特別招待講演と最新作品の紹介も行われた。





パートナーイベント　京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2013

名　称：京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2013
日　時：９月７日（土）～８日（日）
会　場：京都市勧業館（みやこめっせ）
主　催：京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会／京都市
協　力：（一社）日本動画協会／（特非）映像産業振興機構
対　象：マンガ・アニメファン、マンガ・アニメを活用した商売に興味がある事業者、
　　クリエイター志望者
　来場者：31,800人

■内容
●出展ブース
出版社やアニメ制作会社をはじめ、映像メーカーや放送局、教育機関など50以上の企業・団体が出展。新作PRや商品販売が行われた。

●マンガ・アニメタイアップ商品の開発・販売
関西圏企業とマンガ・アニメ作品をタイアップした商品を100種類以上開発し、フェア内で展示・販売を行った。

●ステージイベント
人気作品の声優や作品プロデューサー等によるステージイベントを20以上開催した。






パートナーイベント　第 35 回 PFF ぴあフィルムフェスティバル







名　称：第35回PFFぴあフィルムフェスティバル
会　期：2013年9月14日（土）～20日（金）
会　場：シネクイント
主　催：PFFパートナーズ＝ぴあ、ホリプロ、日活／（公財）ユニジャパン
特別助成：（一社）映画演劇文化協会
特別協賛：セガサミーグループ
特別協力：PARCO
後　援：（一社）日本映画製作者連盟／NPO法人映像産業振興機構（VIPO）／
　　協同組合日本映画監督協会
協　力：早稲田大学／J-WAVE
対　象：一般観客、映画監督志望者、映画製作・配給等関係者、映画・映像教育
　　機関関係者
来場者数：4,000人

■内容
●コンペティション部門「PFFアワード2013」
応募総数511作品の中から16入選作品を東京開催中に2回上映し、最終日の表彰式にてグランプリをはじめとした各賞を発表、表彰。
●招待企画
①**「素晴らしい特撮の世界」**：特撮の巨匠レイ・ハリーハウゼンの追悼として、代表作「シンドバッド7回目の航海」「アルゴ探検隊の大冒険」「タイタンの戦い」の3作品を上映すると共に、オープニング企画として、一昨年（2012年）大成功を収めた「特撮博物館」に携わった樋口真嗣監督、尾上克郎特撮監督に加え、特撮に造詣が深い犬童一心監督、矢口史靖監督と、特撮ファンである落語家・柳家喬太郎師匠によるトークイベントを1部、2部、合計3時間半に及ぶ構成で実施。
②**連続講座「映画監督になる5つの方法」**：様々なスタイルで積極的に映画製作に携わる監督、プロデューサー、撮影監督の方々をお招きして、「日本在住の外国人監督」、「配信という方法」、「自主制作体制を極める」、「低予算映画のつくり方」、「中国在住の日本人監督」という5つのテーマの元に、作品上映、講座、観客との質疑などを実施。

パートナーイベント　CREATIVE HACK AWARD 2013







名　称：CREATIVE HACK AWARD 2013
会　期：2013年6月25日（火）～9月2日（月）　授賞式：10月1日（火）
会　場：東京アメリカンクラブ
主　催：WIRED（コンデナスト・ジャパン）
協　賛：㈱ワコム／日本ヒューレット・パッカード㈱／㈱セルシス
協　力：CMT事務局／㈱電通
対　象：次世代のクリエイター候補
来場者数：応募者数245人

■内容
世界で最も影響力のあるアイデア＆イノヴェイションマガジン『WIRED（ワイアード）』は、次世代のクリエイター発掘のため、ワコム協賛のもと「CREATIVE HACK AWARD 2013」を開催いたしました。本日受賞8作品が決定し、東京アメリカンクラブにて授賞式を行いました。
マンガ、アニメ、ゲームなど、かつての日本のクリエイティヴコンテンツは、クールの象徴として世界を席捲する強力なパワーを有していましたが、昨今そのパワーは確実に衰えています。当社では、このような状況に危機感を覚え、日本のクリエイティヴシーンを再び盛り上げ支えていく「人材」を発掘し、次なるステップへと進むきっかけをもたらすべく、本年、初めてこのアワードを立ち上げ、6月25日（火）から9月2日（月）まで作品を募集しました。
全国各地より総計245件の応募があり、日本のクリエイティヴシーンを代表する9名の審査員の厳正かつ公正な選考の結果、7名の受賞者（グランプリ1名、準グランプリ1名、グラフィック部門賞1名、ムーヴィー部門賞1名、ベストプラン賞1名、ワコムスポンサード賞2名）と、一般投票によるパブリック賞1名の、計8名の受賞者が決定しました。授賞式には、受賞者7名と審査員9名が出席。受賞者それぞれから喜びのコメントと、審査員長の総評をいただきました。

【「CREATIVE HACK AWARD 2013」受賞作品　　テーマ「日本―NEW CREATIVE OF JAPAN」】
●グランプリ
「47seconds」　山田智和（やまだともかず）（25）、映像クリエイター、東京都在住、ムーヴィー作品
●準グランプリ
「DOUZO DOUMO」（どうぞ、どうも）　宇田川直哉（うだがわなおや）（34）、デザイナー、東京都在住、企画作品（アイデアのみでの応募）
●ムーヴィー賞
「忍者動態活写～Ninja vividly moving～」　uwabami（25）、イラストレーター、東京都在住、ムーヴィー作品
●ベストプラン賞
「リビルド野球劇場」　雨本洋輔（あまもとようすけ）（27）、イラストレーター、東京都在住、企画作品

パートナーイベント　吉祥寺アニメワンダーランド 2013

名　称：吉祥寺アニメワンダーランド2013
会　期：2013年10月5日（土）～10月14日（月・祝）
会　場：吉祥寺駅周辺
（武蔵野公会堂／井の頭公園野外ステージ／武蔵野商工会館／
東急百貨店吉祥寺店北側広場／コピス吉祥寺ふれあいデッキこもれび 他）
主　催：吉祥寺ウェルカムキャンペーン委員会
（吉祥寺活性化協議会／武蔵野商工会議所／武蔵野市商店会連合会）
後　援：武蔵野市／武蔵野市開発公社／東京都／経済産業省関東経済産業局
対　象：一般観客
来場者数：約32,000人







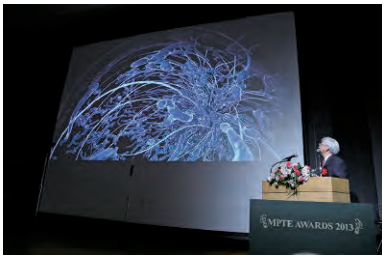
■内容
今回のメインキャラクターには、骨太歴史絵巻である「義風堂々!!」が選ばれ、10日間の期間中、吉祥寺がアニメ一色に染まった。恒例のイベント「吉祥寺おもちゃ市場」や「まちなかファミリーステージ」では、ゆるキャラNo.1の「くまモン」や子供から大人まで大人気の「チェブラーシカ」が登場して会場を盛り上げた。その他、吉祥寺を代表する漫画家楳図かずお先生のステージイベントや、家族で楽しめるスタンプツアー（チェブラーシカの限定グッズを配付）、若きアニメクリエーターの登竜門「吉祥寺アニメ映画祭」、親子参加型のプラモデルワークショップなどを行い、まち全体が大盛況であった。
＜主なイベント 参加者報告＞

公会堂ステージイベント	10／5-6	参加者：　550人
吉祥寺おもちゃ市場	10／5-6	参加者：6,000人
吉祥寺アニメーション映画祭	10／5	参加者：　100人
プラモデル教室	10／6	参加者：　160人
まちなかファミリーステージ	10／5-6	参加者：1,200人
井の頭公園イベント	10／12-13	参加者：20,300人
各大型店等自主イベント	10／5-14	参加者：4,000人

パートナーイベント　MPTE AWARDS 2013 第 66 回 表彰式

名　称：MPTE AWARDS 2013 第66回 表彰式
会　期：2013年10月23日（水）
会　場：六本木アカデミーヒルズ49 タワーホール
主　催：（一社）日本映画テレビ技術協会
後　援：経済産業省／（一社）映画産業団体連合会／（一社）日本映画製作者連盟／
（公財）ユニジャパン／（公社）映像文化製作者連盟／（一社）外国映画輸入配給協会／
全国興行生活衛生同業組合連合会／NPO法人映像産業振興機構／
（一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本アド・コンテンツ制作社連盟／
（一社）日本ポストプロダクション協会／日本放送協会／（一社）日本民間放送連盟／
（一社）全日本テレビ番組製作社連盟／協同組合日本映画撮影監督協会／
協同組合日本映画・テレビ照明協会／協同組合日本映画・テレビ美術監督協会／
協同組合日本映画・テレビ録音協会／協同組合日本映画・テレビ編集協会／
（公社）日本照明家協会／NPO法人テレビ日本美術家協会／
NPO法人日本ビデオコミュニケーション協会（順不同）
協　力：クロスコ㈱／㈱映像新聞社／ユニ通信社
来場者数：約200人







■内容
MPTE AWARDS 2013 第66回 表彰式 は、昨年に引き続きCoFesta 2013のパートナーイベントとして、また、東京国際映画祭の一環として開催した。
「第16回 経済産業大臣賞（日本映画テレビ技術大賞）」、映画・ テレビ等の技術に関係する発明・開発に対し「第66回 技術開発賞」、撮影・照明・録音・美術・編集・アニメーション・VFX・OAGといった映像技術に対し「第66回 映像技術賞」、映像業界に30年以上精励し、功労・ 功績のあった方に贈られる「第5回 日本映画テレビ技術協会 栄誉賞」他、各賞の表彰が行われ、華やかな式典となった。
式終了後は、第26回東京国際映画祭実行委員会（TIFF）主催の映像シンポジウム及びデジタル映像上映会が催され、「新しいデジタル映像世界を語ろう2013」（共催：JSC、MPTE、後援：ATP、協力：キヤノン㈱、キヤノンマーケティングジャパン㈱）と題した交流会も開催された。

パートナーイベント　J-Music LAB







名　称：J-Music LAB
会　期：平成25年11月15日～12月15日
会　場：インドネシア・ジャカルタ市内ショッピングモール「Fx」5階「The Only One Club」
主　催：（一社）日本レコード協会
共　催：
後　援：（一財）音楽産業・文化振興財団（PROMIC）ほか
対　象：インドネシア在住の若年層を中心に幅広い層を対象とする
来場者数：約5,000人

■内容
インドネシア・ジャカルタにおける日本音楽のプロモーション活動として、今回初めて「J-Music LAB（ジェイ・ミュージックラボ）」というイベントを実施致しました。
このイベントは、11月15日から約1ヶ月にわたりジャカルタ市内のショッピングモール「Fx」に会場を設け、週替わりで日本のアーティスト「川畑要」「AMIAYA」「DJ和」「moumoon」「でんぱ組.inc」「TarO&JirO」「藍井エイル」がパフォーマンスを披露したもので、期間中はのべ5,000人におよぶ来場者を集め成功裏に幕を閉じました。
また、同会場では出演したアーティストのサイン入りCD即売会やオリジナルグッズの販売、ビデオコンサートやファンミーティングなどを実施し、日本音楽情報の発信拠点としての活動を展開したほか、日系アパレルブランドとの協力や、滞在中の日本アーティストのテレビ・ラジオ等のメディア露出等も確保し、効果的に日本音楽を広くPRすることが出来ました。
イベントの来場者からは「普段インターネットでしか見られなかったアーティストのパフォーマンスが観られてうれしい」「日本の音楽や文化に興味を持つきっかけとなった。また来年も実施してほしい」など多くの声が寄せられております。
当協会は、これを契機として日本と東南アジア地域との音楽文化の交流をより促進させ、日本音楽の認知向上から日本音楽ムーブメントの創出につながるような施策を今後も積極的に展開して参ります。

パートナーイベント　LA EigaFest 2013







名　称：LA EigaFest 2013
会　期：2013年12月6日（金）～12月8日（日）
会　場：Egyptian Theatre（米国、ハリウッド）
主　催：Japan Film Society
後　援：経済産業省／（公財）ユニジャパン／在ロサンゼルス日本国総領事館／JETRO／Japan Foundation
対　象：ロサンゼルス近郊在住の日本文化と映画に興味のある20～40代を中心とした男女
来場者数：3,455人

■内容
一般アメリカ人観客を対象とし、日本映画及び文化により関心を持って頂き、日本のプレゼンスとブランド力の向上に貢献することを目的とします。更に、日本映画及び才能を映画の都ハリウッドで紹介することにより、若き才能のハリウッド進出のプラットフォームになると同時に、業界間のコミュニケーションを促進させ、日米エンタメ業界の橋渡し役的な映画祭となることを目的とします。
1日目：オープニングレッドカーペットセレモニー、米国プレミアとなる「許されざる者」の上映、その後アフターパーティーを開催。レッドカーペットには「許されざる者」の李相日監督、主演の渡辺謙氏、石田雄治プロデューサー、その他にもオリバー・ストーン監督、「Hachi: A Dog's Tale」プロデューサーのVicki Shigekuni Wong女史及びポール・メイソン氏、「燃えよドラゴン」プロデューサーのポール・ヘラー氏、「卒業」プロデューサーで現USCスタークプログラム学科長のラリー・ターマン氏等、現地ハリウッド関係者にもご参加頂きました。
2日目：通常スクリーニング、中庭での日本の祭りの再現、ビジネスパネル、在ロサンゼルス日本国総領事館にて政府主催日本コンテンツ貢献者表彰式を開催。
ビジネスパネルの題目は「日本コンテンツの米国向けアダプテーションについて」で、パネリストは俳優・プロデューサー・脚本家のマシ・オカ氏、Viz Productionsヘッドの Jason Hoffs氏、Hachi: A Dog's Taleプロデューサーの Vicki Shigekuni Wong女史、経済産業省からは伊吹英明氏がパネリストとして参加くださいました。
3日目：通常スクリーニング、短編映画コンペティションの開催、ゴールデンジパング賞の発表を行い、クロージングフィルムとして宮崎駿監督の「風立ちぬ」を上映。クロージングフィルムではスタジオジブリのジェフリー・ウェクスラー氏に参加いただき、Q&Aを行っていただきました。

パートナーイベント　第 4 回 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード 2013」

名　称：第4回 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2013」
　　「International Corporate Film Showing 2013」
会　期：2013年12月6日（金）・8日（日）～11日（水）
会　場：国立新美術館講堂／日仏会館ホール
主　催：（公社）映像文化製作者連盟
後　援：文部科学省／経済産業省／東京都／映像産業振興機構／日本映画テレビ技術協会／
　　日本アド・コンテンツ制作社連盟／日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／
　　日本映画テレビ照明協会／高度技術社会推進協会／毎日新聞社／読売新聞社／日本経済新聞社／
　　映像新聞社／ユニ通信社
対　象：一般観客、映像制作関連業種関係者及びそれらの職種を目指す学生等
来場者数：730人

■内容

●映文連アワード2013 表彰式
国立新美術館講堂に受賞者及び関係者170名が出席し表彰式を開催、文部科学省生涯学習政策局情報教育課長豊嶋基暢氏、経済産業省商務情報政策局メディアコンテンツ課長佐合達也氏にご登壇頂き、各々大臣賞等が授与された。

●映文連アワード2013 受賞作品上映会
7プログラムに分けて受賞作品29作品を一挙上映、トークセッションでは、「人を育てる、夢を育む～今、教育映像に求められること～」をテーマに受賞作品の監督・ プロデューサーの方々に語り合ってもらった。

●International Corporate Film Showing 2013（世界の優秀企業映像を見る会）
ドイツWorld Media Festival、米国U.S. International Film & Video Festivalに加え、今年はCannes Corporate Media & TV Awardsより厳選した企業映像13作品を上映した。トークセッションは、「広告映像の新たなる可能性～グローバル企業の戦略と展望～」というテーマでディスカッションした。

●映文連創立60周年記念上映会
創立60周年を記念し、戦後60年間に製作されてきた短編映像の中から、各年代を代表する11作品を上映し、日本社会の変遷を映像で読み解いた。トークセッションでは、「短編映像の役割とは何か」と題し、映画評論家・渡部実氏を始め、短編映像のプロデューサー等を迎え、時代と共に歩んできた短編映像の魅力や役割について語り合った。

●大藤信郎「くじら」「幽霊船」デジタル復元版特別上映
日本アニメの先駆者・大藤信郎の代表作2作品がデジタル復元されたため、特別上映を行った。





パートナーイベント　Tokyo Docs 2013

名　称：Tokyo Docs 2013
会　期：2013年12月9日（月）～12日（木）
会　場：千代田放送会館（東京都千代田区紀尾井町1-1）
主　催：NPO法人東京TVフォーラム（略称TTVF）
　　（一社）全日本テレビ番組製作社連盟（略称ATP）
後　援：総務省／経済産業省／東京都／日本放送協会（NHK）／
　　（一社）日本民間放送連盟（民放連）／（公財）放送文化基金／
　　特定非営利活動法人放送批評懇談会／（一社）放送人の会／
　　（一社）全国地域映像団体協議会（全映協）／（公社）映像文化製作者連盟（映文連）
助　成：（公財）放送文化基金／（一社）東京倶楽部
協　力：㈱NHKエンタープライズ／㈱電通／PBS International
対　象：テレビ番組制作者、テレビ局、配給業者、一般
来場者数：約1,600人　※各セッション参加者の延べ人数

■内容

●放送コンテンツの海外発信力強化を目的に2011年に立ち上げ、今回が3回目の開催となる。
●総勢35名のデシジョンメーカー（番組採択権を持つテレビ局プロデューサー）、配給会社、ドキュメンタリー事情に詳しいエキスパートを、欧米、アジアから招聘した。
●ピッチング強化を図るため、海外で活躍している講師を招聘し、7月、9月、11月に計3回（各2日間）に渡る「トレーニングセッション」を開催。延べ約160名が参加した。
●アジア圏との連携を図るため、中国、韓国、インド、マレーシア、シンガポール、タイ、ベトナム、インドネシアの製作会社のプロデューサーを招聘し、コープロ・ミーティングも行った。
●海外ドキュメンタリー祭との連携強化。2013年現在、Hot Docs（カナダ・トロント）、IDFA（オランダ・ アムステルダム）、Asian Side of the Doc（ASD）、CNEX Chinese Doc Forum（CCDF 台湾・台北）、Docege（インド・カルカッタ）とパートナーとなっている。





パートナーイベント　豪州ジャパン・エキスポ







名　称：Japan Expo and Matsuri in Sydney 2013
会　期：2013年12月14日(土)
会　場：タンバロンパーク（ダ―リングハーバー）
　　Tumbalong Park, Darling Harbour, Sydney NSW 2000
主　催：Matsuri in Sydney実行委員会（シドニー日本クラブ）／観光庁／JNTO
後　援：在シドニー総領事館／JCCIシドニー日本商工会議所／
　　JSSシドニー日本人会／日本貿易振興機構シドニー事務所／
　　自治体国際化協会シドニー事務所／JETAA（JET同窓会）／
　　国際交流基金シドニー日本文化センター
対　象：シドニー市民
来場者数：20,000人

■内容
JAPAN EXPOは、従来から行われている「祭りin Sydney」の取り組みと連携し、日本の魅力をさらに多くの人にアピールする、オーストラリア最大の訪日観光促進イベントです。
「トラディショナルジャパン」と「クールジャパン」の2つの日本文化体験型ブースを設置し、トラディショナルジャパンブースでは、日本の伝統的なあそび・文化として、おりがみ、けん玉、習字、生け花の体験教室を開催しました。クールジャパンブースでは、「日豪をネットで結ぶ似顔絵マンガサービス」と題し、日本にいる漫画家に自分の似顔絵を書いてもらう画期的なサービスの実施や、顔のパーツを組み合わせて自分で自由に似顔絵が作成できる、オリジナル似顔絵ソフトを駆使した体験コーナーを用意しました。
その他メインステージでは、コスプレコンテストや浴衣コンテスト、東京かわいいファッションショー（外務省の「カワイイ大使」として世界中で日本のポップカルチャーを伝えている青木美沙子さん出演）を実施しました。コスプレコンテストでは、予選通過の3チーム（Team Straw Hat Pirates、Team Yarazu no Ame、Team Shingeki）がステージパーフォーマンス展開し、アニメ「ワンピース」をモチーフとしたTeam Straw Hat Piratesが優勝しました。

コ・フェスタアンバサダー

■施策
コ・フェスタ事業の取り組みとして、昨年度立ち上げたコ・フェスタアンバサダー施策を継続し進化させた。同施策の目的は、外国人消費者の声からマーケットの実態を把握しコンテンツ業界関係者に届けること（マーケティング）、そして、クールジャパンの魅力を外国人消費者の声を通じて自国はじめ海外に広く紹介すること（プロモーション）である。



■選考
コ・フェスタアンバサダーの選考基準は、日本コンテンツを愛しSNSなどを駆使した発信力のある外国人であることが前提条件である。そして、日本国内の在住者においては、日本の文化やコンテンツを深く理解する外国人留学生を中心に（国内アンバサダー）、海外においては、日本コンテンツに関わるファン活動を実施し影響力を持つ外国人インフルエンサーを中心に（海外アンバサダー）、コ・フェスタアンバサダーに任命した。



公募の結果、国内在住者115名、海外在住者51名の合計166名の登録があった。出身国は、35ヵ国・地域に渡る（アメリカ、アルジェリア、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、ウズベキスタン、エジプト、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、カンボジア、ケニア、コロンビア、シリア、シンガポール、スペイン、タイ、ダニシュ、チュニジア、ドイツ、ネパール、フィリピン、フランス、ブルガリア、ベトナム、ポーランド、香港、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、韓国、台湾、中国）。

海外アンバサダーにおいては、フィリピンの有名コスプレイヤーであるAlodia（アローディア）やシンガポールの有名ブロガーであるXiaXue（シャーシュエ）などネット上で影響力のあるインフルエンサーの登録が数多くあった。例えば、AlodiaはFacebookファンページで390万以上、XiaXueはInstagramで40万以上のファンを抱えており、両者ともひとつのSNS上の投稿で万単位の「いいね!」や「ライク」を獲得する。



■活動内容
コ・フェスタアンバサダーの主な活動として、「1.海外調査」「2.フィードバック」「3.海外PR活動」「4.海外への情報発信」の4つが挙げられる。

1.海外調査……コ・フェスタアンバサダーの人的ネットワークを活用し、海外の消費トレンドを調査。TIFFCOMのセミナーやアジアトレンドマップなど、ニーズのある場において成果を発表する。

2.フィードバック……コ・フェスタイベントに参加し、外国人消費者としての声を主催者へフィードバックする。また、ニーズに応じて関係省庁やコ・フェスタ関連の企業へ訪問し、グループインタビューにて外国人消費者の意見を提供する。

3.海外PR活動……海外アンバサダーのネットワークを使い、現地でのPR（集客・イベント展開等）を支援する。今年度は「マンガフェスティバルinシンガポール」のひとつのプログラムとして、シンガポール国立大学でのシンポジウムを企画・実施した。

4.海外への情報発信……コ・フェスタアンバサダーがコ・フェスタイベントを訪問し、SNS等を通じて、日本コンテンツの魅力を海外に発信する。





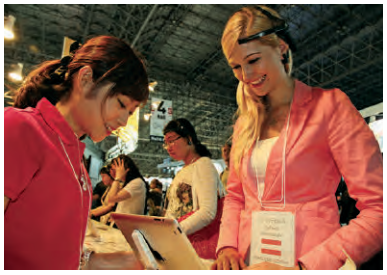
コ・フェスタアンバサダー











■主な活動記録
日本在住の外国人留学生で構成される国内アンバサダーの活動は多岐に渡った。コ・フェスタのイベントへの参加、省庁・企業訪問などを通じて、主催者への「2.フィードバック」および「4.海外への情報発信」に寄与した。

8月18日　「第10回東京国際ミュージックマーケット」が主催するショーケースライブの参加候補アーティストの評価会を14名のアンバサダーで行った。その結果を参加アーティスト選定の参考としていただいた。

9月19日　六本木アカデミーヒルズで行われた「第26回東京国際映画祭」の第2回記者会見を、アンバサダー4名が見学した。椎名保ディレクターズジェネラルと意見交換を行った。

同　　日　幕張メッセで行われた「東京ゲームショウ2013」のビジネスデイにアンバサダー12名が参加。開会式では経済産業省商務情報政策局審議官IT戦略担当の山田真貴子氏よりアンバサダー施策の紹介があった。同会場で実施された「日本ゲーム大賞2013」にも参加した。

10月 5日　幕張メッセで行われた「CEATEC JAPAN 2013」にアンバサダー13名が参加。日本の最先端IT・エレクトロニクスに触れた。

10月16日　「第40回日本賞教育コンテンツ国際コンクール」のファイナリスト作品の評価会を実施。30名のアンバサダーが参加した。

10月17日　TOHOシネマズ六本木ヒルズにて「第26回東京国際映画祭」オープニングセレモニーにアンバサダー5名が参加し、オープニング作品「キャプテン・フィリップス」を鑑賞した。

同　　日　都内各地にて、複数日程で催された「Mercedes-Bentz Fashion Week TOKYO2014 S/S」では、累計15名のアンバサダーが最新のファッション事情について、各ブランドのファッションショーを通じて理解を深めた。

10月19日　シネマート六本木で行われた「第10回文化庁映画週間」のシンポジウム上映会『赤ひげ』をアンバサダー7名が鑑賞した。

10月22日　Zepp DiverCity TOKYOにて実施された「Japan Content Showcase 2013」のレセプションパーティにアンバサダー20名が参加した。海外バイヤーを中心に積極的にインタビューを行い、日本コンテンツの海外展開に対する評価を調査した。

同　　日　六本木アカデミーヒルズで行われたシンポジウム「第10回文化庁映画週間」『時代劇へようこそ〜先ず、粋にいきましょう』にアンバサダー6名が参加し時代劇に関する理解を深めた。

同　　日　東京プリンスホテルで行なわれた「東京ドラマフェスティバルin TOKYO 2013」「東京ドラマアウォード2013」授賞式に海外アンバサダー13名が参加。数多くの日本の優れたドラマを知る機会となった。

同　　日　アンバサダー4名が、NHK放送センターで実施されたIPCEM（教育コンテンツ世界制作者会議）の「学校の未来〜MOOCsの可能性と課題」「教育メディア 途上国の戦略」を見学、所感をレポートにまとめた。これらの活動を、SNS上の広報に役立てていただいた。

コ・フェスタアンバサダー

10月23日　Zepp DiverCity TOKYOにて実施された「第10回東京国際ミュージックマーケット　ショーケースライブ」に参加。

10月24日　ホテルグランパシフィックLE DAIBAで実施されたTIFFCOM2013・第10回東京国際ミュージックマーケット・東京国際アニメ祭2013秋・CMTを、森下美香TIFFCOM統括プロデューサーの案内で各ブースを見学。多岐にわたる日本コンテンツの商談の場で交流を深めた。

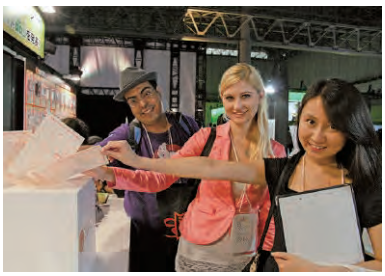
10月26日　日本科学未来館にて行われた「デジタルコンテンツEXPO2013」にアンバサダー9名が参加した。研究開発段階にあるシーズ技術やプロトタイプシステムを見学・体験した。

11月 7日　シンガポール国立大学において、「マンガフェスティバルinシンガポール」のイベントを開催した。同大学の日本研究学科および日本文化クラブJapanese Study Societyの協力のもと3コマのセミナーを実現させた。

11月15日　幕張メッセにて行われた「Inter BEE 2013」にアンバサダー6名が参加した。最先端の映像機器、音響機器、照明機器、周辺アプリケーションやソリューションに触れた。

12月 4日　六本木ハリウッドホールにて行われた「第30回ATP賞」にアンバサダー4名が参加した。







■活動まとめ
海外アンバサダーの招聘活動として、インフルエンサーの中で特にネット上で影響力のある13名を10月21～25日の期間で日本へ招聘し、「4.海外への情報発信」を行った。「デジタルコンテンツEXPO2013」「Japan Content Showcase 2013（TIFFCOM・TIMM・TIAF・CMT）」「国際ドラマフェスティバルin TOKYO 2013」、TIMM主催の「ショーケースライブ」に参加したほか、「日本放送協会」「アニメイト池袋本店」へ訪問した。その体験はSNS上で投稿され、海外のフォロワーがそれを追体験し、それをさらに友人にシェアすることで、日本コンテンツファンの拡大を図った。

そのほか、国内アンバサダーは、コ・フェスタのイベント関連企業である「日本放送協会（NHK）」「株式会社KADOKAWA」、CMT関連で制服ブランド「響」等と、海外への情報発信や海外展開に関する意見交換を実施した。さらに、「アジアトレンドマップ」への外国人消費者視点の記事提供やPromic.TV主催ライブへの外国人集客にも協力した。

そして、活動のまとめとして、2014年3月18日に経済産業省にて、国内アンバサダーが現場で感じたこと、また海外消費者から見た日本コンテンツに対する示唆について、6チーム合計14名がプレゼンテーションを行った。メキシコチームは「メキシコおよびラテンアメリカ市場のポテンシャルについて」、シンガポール/マレーシアチームは「日本ファッションを流行らせる方法について」、ベトナムチームおよび中国チームは、「日本ドラマの流行らせる方法および波及効果について」、タイチームは「日本音楽の流行らせ方について」、インドネシアチームは「WakuWaku Japanチャンネルについて」、各プレゼンテーションを行った。

一体感の創出　公式行事等への実行委員会正副委員長の出席

●KYOTO CMEX 2013　オープニングレセプション
9月6日（金）18:00～　ザ・ソウドウ東山
コ・フェスタ側出席者：松谷　孝征　副委員長
主催者側出席者：山田　啓二　京都府知事
門川　大作　京都市長
立石　義雄　京都商工会議所会頭
齋藤　　茂　KYOTO CMEX実行委員長

●東京ゲームショウ2013　開会式
9月19日（木）9:30～　幕張メッセ
コ・フェスタ側出席者：大谷　信義　実行委員長
主催者側出席者：鵜之澤　伸　（一社）コンピューターエンターテインメント協会会長
辻本　春弘　（一社）コンピューターエンターテインメント協会理事
長田　公平　㈱日経BP社代表取締役社長
山田真貴子　経済産業省大臣官房審議官（IT戦略担当）

●第26回東京国際映画祭　オープニングセレモニー、レセプション
10月17日（木）18:00～　六本木ヒルズ
コ・フェスタ側出席者：大谷　信義　実行委員長
依田　　巽　副委員長
松谷　孝征　副委員長
主催者側出席者：安倍　晋三　内閣総理大臣
茂木　敏充　経済産業大臣
椎名　　保　第26回東京国際映画祭ディレクタージェネラル
島谷　能成　第26回東京国際映画祭実行委員会会長
迫本　淳一　（公財）ユニジャパン理事長

●第10回文化庁映画週間　平成25年度文化庁映画賞贈呈式
10月17日（木）18:00～
六本木ヒルズ　グランドハイアット東京2階「コリアンダー」
コ・フェスタ側出席者：松谷　孝征　副委員長
主催者側出席者：青柳　正規　文化庁長官
椎名　　保　第26回東京国際映画祭ディレクタージェネラル

●東京ドラマフェスティバル in TOKYO 2013
東京ドラマアウォード2013授賞式・パーティー
10月22日（火）12:00～　東京プリンスホテル
コ・フェスタ側出席者：重延　　浩　副委員長
依田　　巽　副委員長
松谷　孝征　副委員長
主催者側出席者：川上　陽子　総務副大臣
松島みどり　経済産業副大臣
井上　　弘　実行委員長
小野　直路　副委員長
重村　　一　副委員長兼EP
杉田　成道　選考委員長

●Japan Content Showcase2013　オープニングレセプション
10月22日（火）19:00～　Zepp DiverCity TOKYO
コ・フェスタ側出席者：依田　　巽　副委員長
松谷　孝征　副委員長
重延　　浩　副委員長
主催者側出席者：松島みどり　経済産業副大臣
椎名　　保　第26回東京国際映画祭ディレクタージェネラル
布川　郁司　（一社）日本動画協会理事長
後藤由多加　（一社）音楽産業・文化振興財団

●デジタルコンテンツEXPO 2013授賞式
10月25日（木）17:15～　日本科学未来館
コ・フェスタ側出席者：大谷　信義　実行委員長
主催者側出席者：肥塚　雅博　（一財）デジタルコンテンツ協会会長
山田真貴子　経済産業省大臣官房審議官（IT戦略担当）

●第40回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール　授賞式・レセプション
10月24日（木）16:30～　NHK放送センター
コ・フェスタ側出席者：大谷　信義　実行委員長
依田　　巽　副委員長
松谷　孝征　副委員長
重延　　浩　副委員長
来　　賓：皇太子殿下
主催者側出席者：上川　陽子　総務副大臣
西川　京子　文部科学副大臣
岸　　信夫　外務副大臣
直原　　裕　東京都教育庁次長
松本　正之　日本放送協会会長
赤羽　一嘉　経済産業副大臣
野口　　昇　日本ユネスコ協会連盟理事長
塩野　　宏　放送文化基金理事長
前田エレナ
田口　栄治　国際交流基金理事
平林　国彦　ユニセフ東京事務所代表
（授賞順）

●第30回ATP賞テレビグランプリ2013　授賞式
12月4日（水）16:00～　都市センターホテル
コ・フェスタ側出席者：迫本　淳一　副委員長
重延　　浩　副委員長
主催者側出席者：森田　　高　総務大臣政務官
松本　正之　日本放送協会会長
井上　　弘　日本民間放送連盟会長
倉内　　均　全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）理事長

広報　制作物

■紙媒体

●ポスター

数　量：700枚
仕　様：フルカラー
配布先：実行委員会、百人委員会、関連イベント、関連省庁、自治体、団体、
コンテンツ産業教育機関など



●オフィシャルガイド

数　量：40,000部（日本語版）20,000部（英語版）　合計 60,000部
仕　様：蛇腹折り　フルカラー
配布先：実行委員会、百人委員会、関連イベント、関連省庁、自治体、団体、
コンテンツ産業教育機関など





■映像

●公式映像記録DVD

数　量：200枚
配布先：実行委員会、百人委員会、関連イベント、関連省庁、自治体、団体など



■Web

●コ・フェスタ2013オフィシャルウェブサイト

ＵＲＬ：http://www.cofesta.jp/
言　語：日本語、英語
facebook：http://www.facebook.com/CoFesta
twitter：cofesta_2013



コ・フェスタ（JAPAN 国際コンテンツフェスティバル）2013 実施報告書

発行日：2014年3月
発　行：コ・フェスタ実行委員会
デザイン監修：㈱サムライ
Printed in JAPAN
© VIPO
住　所：東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8F
NPO法人 映像産業振興機構（VIPO）内
電　話：03-3543-7321
F A X：03-3543-7322
U R L：http://www.cofesta.jp/
Eメール：info@cofesta.jp

※著作権者から文書による許諾を得ずに、無断で複写・複製することは禁じられています。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。